

9772-44

204
470

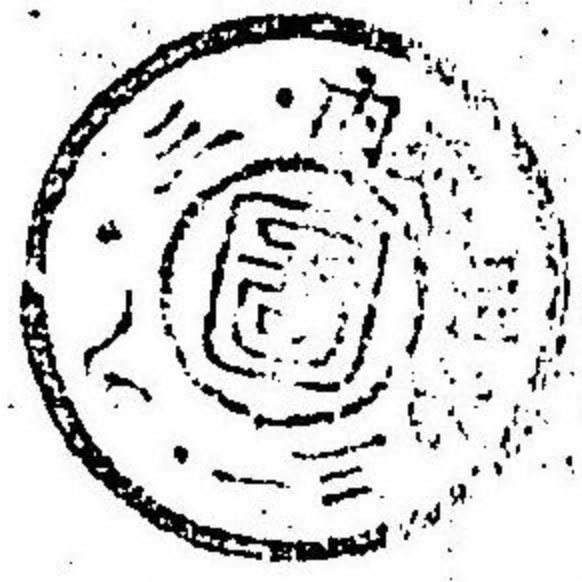
明治二十八年六月以後改正現行大尾ニ附則森林法アリ

行現
茨城縣令規類抄
下卷

C2
1113
26-05

- 種痘規則施行細則
- 種痘季節ノ件(郡市)
- 種痘施術ヲ爲ス者ハ届出ツヘキ件
- 痘漿ハ腺病性兒童ヨリ採ヘカラヌ件
- 牛痘苗製造販賣者認可ヲ受クヘキ件
- 邸内清潔規則
- 衛生組合規則
- 瀛車検査施行手續
- 傳染病豫防規則
- 再歸熱ニ關スル件(郡)
- 赤痢病豫防委員設置ノ件(郡市町村)
- 傳染病消毒及消毒藥使用方法
- 傳染病患者報告手續
- 虎列刺病患者發生シタルトキ病原ヲ記シ即報スヘキ件
- 傳染病ニ罹リ身元赤貧ニシテ資力ナキ者救助方法ノ件(郡)

目次



四四 四三 四〇 三六 三六 三五 十七 一六 一二 八五 四三 三一

- 地方病患者報告手續 四五
- 中毒患者報告手續 四六
- 勸業同業組合準則 四九
- 蠶糸茶業組合規約届田ノ件 五二
- 農商工通信規則(郡町村) 五二
- 土地區畫改正組合規約例 五二
- 土地區畫改正組合ヲ設ケ認可ヲ受ル件(郡市町村) 五九
- 農會設置規程 六〇
- 全施行ニ關スル件 六四
- 全誘導方ノ件 六五
- 害虫驅除豫防規則 全
- 全豫防ニ關スル件 七二
- 田圃作物災害報告(郡町村) 七四
- 米麥作物報告ノ件(郡町村) 七五
- 茨城縣簡易農學校規則 七五
- 製茶營業者届出ノ件 八一
- 茶畑改良試驗場位置及試驗法 八一

- 蠶糸業取締規則ニ關スル訓令 八七
- 蠶糸用蠶糸検査施行手續 全
- 蠶種検査規則施行手續 八九
- 全配付請求證明書ノ件 九二
- 製糸巡回教師教授方法 全
- 製糸業教授ノ方法 九四
- 種牡牛馬取締規則 九八
- 獸醫組合準則 一〇一
- 獸醫仮免非下附出願細則 一〇四
- 全仮免狀願取調ノ件 一〇六
- 蹄鉄工仮免狀出願細則 一〇七
- 全開業届出ノ件 一〇九
- 銀行會社設立調査ノ件(郡市) 一一〇
- 私立銀行營業報告書ノ件 一一一
- 銀行會社設立書類ノ件 一一二
- 全資本増減申請ノ件 同
- 私立銀行財産目錄等公告ノ件 一一三

- 船舶海員水陸運輸電氣等ノ營業會社ノ願ニ關スル件 同
- 商事民事會社設立届ケノ件 全
- 玄米相場報告 一四
- 度量衡取締規則 一五
- 一百噸以上ノ船舶買入タルハ調査ノ件 一〇
- 西洋形日本形船舶報告様式 一一
- 西洋形船舶長運轉手等報告表式 一二
- 鑛山試堀及探堀等取調ノ件 一七
- 砂鑛又ハ鑛石ヲ買入製煉ノ件 一八
- 水産巡回教師ニ關スル規程 一九
- 漁業組合準則 二〇
- 全違犯者處罰ノ件 二二
- 鮭鱒漁業取締規則 二三
- 利根川無網使用ノ件 三五
- 鮑捕獲ノ潜水器械使用ノ件 三七
- 湖沼川漁業採藻取締規則 一四
- 漁業採藻禁止ノ件 全

- 仙波湖漁業取締禁止 全
- 博覽會共進會開設報告 全
- 產馬身組合規則 四五
- 船車取締規則 一五〇
- 全施行規則 一五四
- 水産講習所規程 一五六
- 農事講習所規程 一五八
- 共進會品評會設置規程 一六〇
- 製糸講習所規程 一六一
- 管内里程 一六三
- 國縣里道取調ノ件 一六四
- 區道縣道線路 全
- 土木費所屬區域 一九四
- 郡市町村土木補助費支出規程 一九六
- 全取扱手續 一九八
- 河港道路橋梁樋管堰構修築手續 二〇〇
- 土木工事竣功上申ノ件 二〇三

道路掃除規則	二〇四
營繕事務取扱規則	二〇六
郡廳舎修繕着手ノ件	二一六
市定外ノ建築修繕伺ノ件	全
町村費土木工事出願ノ件	二一七
土木工事掃渡シ手續	全
町村費ヲ以テ起セシ工事金高帳書式	二二三
河川沼湖ヲ堰止メ堤塘築造セントスルモノ出願ノ件	二二九
河川水利障害者相當處分ノ件	二二九
水利組合事務報告ノ件	二三〇
水車架設ニ關スル件	二三一
官有原野像約賣渡規則	全
官有土地拂受規則	二四一
町村ニ於テ官有地拜借ノ件	二四二
官有地貸渡賣渡及產物賣渡規則	二四二
官有森林原野產物特賣規程	二五一
並木損木公買手續	二五六

內務省主管物件公買規程	二六二
全主管ニ係ル物件公賣保證金ノ件	二七〇
官有物件賣渡賣渡評價規程	同
官有物件評價ノ件	二七三
共有部分林養成心得	同
部分木植付出願手續	二七五
並木取締注意ノ件	二七七
水害及海嘯損害表調査報告	二八一
天變地異氣象ニ關スル件	二八三
地震報告ノ件	二八六
天變地異非常報告	二八八
改正徵兵令舊令徵兵令ニ交步ノ件取扱方	二八九
輕重輸卒取扱方	二九一
現役免除願ノ件	同
終決處分ヲ受サル者徵兵検査ノ件	二九二
陸軍士官候補生幼年學校生徒志願書式取調ノ件	二九六
豫備後備下士卒結婚願ノ件	二九九

茨城縣國民兵召集事務細則	三〇一
町村役場ニ於テ兵種名簿整理ノ件	三三〇
第一師團復員規程	三三八
陸軍召集旅費時設支給場並ニ區域	同
徵發事務取扱心得	三四三
獸醫雇入規程	三五〇
同姓名住所々得金高調ノ件	三五七
第一師團備上馬匹取扱規則	三六一
兵事事務取扱方	三六二
神社寺院佛堂等創立再興復舊許可ノ方建設限々	三六四
私邸内自祭神祠佛堂參拜ノ件	三八五
社寺堂宇公賣再建ノ件	三八六
廢寺願書ノ三通ヲ要ス	同
神社並寺院明細調製式	三八七
神社寺院實物取調書式	同
縣社以下ノ神社並寺院物古ノ件	三八九

官有地寺院境内使用認可ノ件	三九二
社寺境内立木取扱規則	三九五
官幣社及國幣社大祭々祀	三九八
官國幣社神職奉務規則	四〇〇
官國幣社保証金交付取扱方	四一二
戶籍改製ニ付異動調	四二二
戶籍取扱心得	同
戶籍改正手續	四二四
受刑罰身代限リ者等取調件	四三一
二三男等家督相續願加命ノ件	四三二
出產届書式	四三六
馬丁寄留取扱方	四三九
賞罰辭令受書ノ件	四四〇
棄兒養育窮民救助取調書式	四四三
地方學事通則及小學令施行	四四七
幼稚園圖書館盲啞學校各種學校及私立小學校設立廢止規則	四四八
小學校規則	四五一

公立中學校專門學校敷地下渡坪敷制限	外三件	四五九
市町村立小學校通則		五六一
小學校教則		五六四
小學校每週教授時間制限	外三件	四八〇
市町村立小學校生徒昇校停止規則		四八四
教育ニ付心得方ノ訓諭		四八六
家庭教育ニ關スル規則		同
學齡兒童就學規則	外五件	四八八
小學校教科用圖書審査ニ關スル規則		四九四
小學校祝日大祭日儀式次第		四九七
尋常中學校學科程度實施方		五〇二
尋常師範學科授業實施規則		五一一
尋常師範學校生徒募集細則	外三件	五一四
尋常師範學校附屬小學校規則		五一六
尋常師範學校卒業生服務細則		五二五
幼稚園保海免許規則		五三七
小學校員檢定ニ關スル規則		二八五

小學校教員講習科規程		五四〇
小學校教員講習生選考手續		五四二
市町村立小學校校長及教員ノ任用解職其他ニ關スル細則	外一件	同
小學校校長及教員ノ服務細則		五四四
小學校教員ノ私宅ニ於テ生徒ヲ教授スルノ件		五四五
小學校教員ハ已自ノ選舉權ヲ行フ外黨派ニ關セスルノ件		同

特16
699

現行茨城縣令規類抄 下卷

○種痘規則施行細則 (明治二十八年九月七日縣令第四十一號)

種痘規則施行細則左ノ通相定ム

但明治十九年甲第十二號布達種痘細則ハ本令發布ノ日ヨリ廢止ス

種痘規則施行細則

第一條 種痘ハ毎年三月ヨリ五月ニ至ルノ間及九月ヨリ十一月ニ至ルノ間ニ於テ施行スヘシ

第二條 郡市長ハ前條ノ期間ニ於テ其期日ヲ定メ之ヲ其郡市内ニ告示シ其所轄警察署又ハ警察分署ニ通報スヘシ

第三條 市町村長ハ豫メ種痘担当醫ヲ定メ其氏名ヲ(町村ハ郡役所ヲ經テ)縣廳ニ報告スヘシ

第四條 市町村長ハ其市町村内便宜ノ地ニ種痘所ヲ設ケ普ク担当醫師ニ種痘ヲ受ケシムル手續ヲ爲スヘシ

但シ受痘者ノ便宜ニ依リ他ノ醫師ニ就キ種痘スルハ妨ケナシ

第五條 市町村長ハ大字毎ニ第一號書式種痘名簿ヲ調製シ置キ第九條ノ證書ニ據
リ其善感不善感及天然痘濟等ノ事項ヲ記入スヘシ

第六條 種痘規則第四條ノ届出アルトキハ其病氣全瘥又ハ事故止ミタル際ニ於テ
直ニ種痘ヲ爲サシムヘシ

第七條 町村長ハ第二號書式ノ種痘明細表ヲ製シ翌年一月十日限リ所轄郡長ヘ差
出スヘシ但種痘規則第三條ニ依リ種痘ヲナシタルモノハ別表トナシ臨時ノ二字
ヲ朱書シテ差出スヘシ

第八條 郡市長ハ第二號書式ニ依リ種痘明細表ヲ調製シ(定時臨時ヲ區別シ)翌年
二月十五日限リ縣廳ニ進達スヘシ

第九條 醫師種痘ヲ爲シ又ハ天然痘患者ヲ治療シタルキハ第三號書式ノ證書一通
ヲ製シ所轄市長又ハ町村長ニ送致スヘシ

市長又ハ町村長ハ前項ノ證書ニ依リ種痘名簿ニ記入シタル後之ヲ本人ニ交付ス
ヘシ

第十條 種痘若クハ天然痘証ヲ受ケタルモノハ之ヲ保存シ臨時點檢ノ用ニ供スヘ
シ

第十一條 種痘ニ關スル諸費ハ總テ其市町村ノ支辨トス但第四條但書ノ場合ハ
此限ニアラス

(書式ハ略ス)

(種痘季節ノ件 (明治三十年十月十一日訓令甲第二十五號) (郡市

警町村)

本縣ニ於ケル種痘ノ施行ハ春秋二季ノ規定ナルモ秋季ハ繁農ノ期ニ際スルヲ以テ
春季ニ接種セシムルモノ多キカ如シ然レモ痘瘡ノ流行期ハ毎年概テ十一月ヨリ翌
年四五月ニ涉ルハ其筋ニ於ケル取調ノ結果ナルヲ以テ秋季種痘ヲ忽ニセンカ春季
種痘後出生ノ兒童ハ恰モ其流行期ニ遭遇スルノ狀況ニシテ豫防ノ精神ヲ全フセサ
ルノミナラス其危實亦大ナリト云フヘシ殊ニ内務省訓令第十九号ノ次第モ有之候
ニ付自今市又ハ町ニ在テハ秋季種痘ヲ種トシ其他ノ村落ニ在テモ可成秋季種痘サ

ノ普及ヲ計ルヘシ

○種痘施術ヲ爲ス者ハ届出出ツヘキ件 (明治十七年十二月廿四日甲第七十一號)

醫術開業免狀所持ノ者(齒科整骨科ヲ除ク)ハ自今種痘免狀ヲ付與セス施術差許候條施術ヲ爲サントスル者ハ所轄郡役所ヲ經テ届出ツヘシ此旨布達候事

但明治十四年縣廳乙第百六號布達ハ廢止トス

○痘漿ハ腺病性ノ兒童ヨリ採ルヘカラサレ件 (明治二十四年三月二十六日訓令第三十二號)(郡、市)

種痘ニ應用スヘキ痘漿ノ義ハ純良ナルモノニアラサレハ暗ニ其病毒ヲ傳ヘ終身衰多四病ノ原ト相成可申ニ付採漿ノ際ニ於テハ最健全ナル種痘兒ヲ撰ミ明治十八年四月本縣長甲第二十二號達種痘施術心得書ノ旨趣ニ由リ決シテ腺病性ノモノ梅毒皮膚病ナルモノ其他帶患ノ小兒ヨリ採漿接種不致様承諭相成篤ク注意セシムヘ

○牛痘苗製造販賣者認可ヲ受クヘキ件 明治十五年五月十五日第四號

自今牛痘苗ヲ製造販賣セントスルモノハ其製品ニ左ノ各項ヲ具シ認可ヲ受ヘ

要項

- 第一 犢牛ノ撰擇及其接種法
- 第二 痘胞良否ノ鑑識法
- 第三 採漿法
- 第四 貯蓄法
- 第五 配伍物質ノ名稱分量
- 第六 種繼法
- 第七 製造法ノ位置
- 第八 製造所及四隣ノ畧圖
- 第九 技術者ノ履歷

○市町村清潔法 明治二十八年五月十日訓令甲第四號 (郡市町村)

清潔法ハ傳染病豫防上特ニ之ヲ人民各自ノ施措ニ委ヌヘカラス市町村ニ於テ
ハ明治廿七年二月勅令第十四號ノ旨モ之アリ之カ責ニ任スルハ勿論傳染病流行
ノ虞アルニ當リテハ殊ニ周到ノ措置ヲ要スルニ付左ノ諸項ニ準シ實施スヘシ

市町村清潔法

一市町村ハ其市町村内ノ清潔ヲ保續スルノ方法順序ヲ定メ之カ施行ノ責ニ
任ス

二溝渠下水汚水溜等ハ浚濼掃除ヲ爲シ其流通ヲ良クシ若シ破損ノ箇所アルトキ
ハ修繕ヲ加レヘシ

但傳染病流行時ニアリテハ妾リニ溝渠下水等ヲ攪擾スヘカラス

溝渠下水汚水汲ミ取り道路ニ散布スヘカラス

三溝渠下水ノ必要アリテ未タ其設ナキ場所ニハ速ニ之ヲ布設スヘシ

吸込下水ハ成可之ヲ埋却シ更ニ流通ノ設ケサナスヘシ

四公衆用ノ便所ハ每週二回以上之ヲ汲ミ取り溢流ヲ防キ糞池及周圍ニハ適當ノ

消毒藥ヲ散布スヘシ

但市町村内戸口密集シ特ニ病毒萌生ノ虞アル場所ニ於ケル共同便所總雲隠モ
之ニ準ス

五塵芥及汚物ハ散逸漏洩ノ虞ナキ容器ヲ用ヒ各戸ニ就每週二回以上集収シ一定

ノ場所ニ運搬シ更ニ衛生上無害ノ地ニ棄却シ若クハ焼却スヘシ

但旅人宿飲食店寄席劇場貸坐敷工業場等ノ如キ衆人群集ノ場所ニ於テハ一層

周密ノ方法ヲ設クヘシ

六飲料水及使用水ノ近傍ハ常ニ注意ヲ加ヘ汚水ノ滲透汚物混入等ノ虞ナカラシ

ムヘシ

七市町村内戸口密集シ殊ニ病毒萌生ノ虞アル部分ハ傳染病豫防心得書中虎列刺

ノ部第五條ニ準シ消毒劑ノ清潔法ヲ施行スヘシ

八傳染病流行ニ際シ病毒潜伏ノ疑アル溝渠下水便所芥溜等ニハ相當ノ消毒藥ヲ

投入シ嚴重ニ清潔法ヲ行レヘシ

九前數項ハ町村等ニシテ人家稠密ナラサル地ニアリテハ之ヲ參酌施行スルコトヲ得

十當該吏員ハ時々巡視ヲ爲シ清潔法ノ施行ヲ監督スヘシ

○邸内清潔規則 明治二十八年九月七日縣令第四十號

邸内清潔規則左ノ通相定ム

邸内清潔規則

- 第一條 邸内ノ常ニ清潔ヲ保持シ傳染病其他病毒ノ發生ヲ豫防スヘシ
- 第二條 邸内ニハ必ス下水溜又ハ下水溝ヲ設クヘシ
- 第三條 市街地邸内ニ於ケル下水溜及下水溝ハ左ノ制限ニ從ヒ構造スヘシ
但シ單ニ雨水ノ吐キ流シニ供スル下水溝ハ此限りニアラス
一 下水溜ハ甕。石。煉化石。コンクリート又ハ厚板ニテ造リタル桶箱等ヲ以テ汚液ノ滲漏セサル様構造シ且ツ適當ノ蓋ヲ備フヘシ
二 下水溝ハ石。煉化石。土管又ハ厚板等ヲ以テ汚水ノ滲漏セサル様構造シ且ツ適

當ノ句配ヲ付スヘシ

- 三 下水溜及下水溝ハ成ルヘシ飲料水ト隔リタル場所ニ設クヘシ
- 四 埋込下水溝ニハ適宜芥除ヲ付スヘシ
- 五 下水溝吐キ口ハ大下水若シハ河海又ハ下水溜ニ灌流スル様構造スヘシ
- 第四條 下水溜ヲ充溢シ若シハ下水溝ヲ停滯セシムヘカラス
- 第五條 下水溜及下水溝ハ毎年四回(三月六月九月十二月)以上之ヲ浚滌シ大掃除ヲ爲スヘシ
- 第六條 塵芥及汚物ハ一定ノ場所ニ収集シ置キ衛生上無害ノ地ニ棄却シ又ハ燒却スヘシ
- 旅人宿料理店飲食店寄席劇場貸坐敷工業場等ノ如キ衆人群集スヘキ場所ニ在テハ適宜散逸漏泄ノ虞ナキ蓋付ノ容器ヲ設ケ該容器ニ収集シ每週二回以上棄却又ハ燒却スヘシ
- 第七條 飲料ニ供スル井戸又ハ使用水ハ時々浚滌シ其近傍ハ常ニ清潔乾燥ナラシ

汚水滲透汚物混入等ノ虞ナカラシムヘシ

第八條 市街地邸宅ニ付屬スル便所ハ左ノ制限ニ從ヒ構造スヘシ

一 便所ハ成ル可ク飲料水ト隔リタル場所ニ設クヘシ

二 大便所數箇ヲ並設スルトキハ各其溜壺ヲ異ニスヘシ

三 溜壺ハ内外ノ粘藥ヲ施シタル甃石煉化石コンクリート又ハ一寸以上ノ厚板ハテ造リタル箱桶等ヲ以テ汚液ノ滲泄セサル様構造スヘシ

四 土台及踏板下ノ周壁ハ石煉化石又ハ厚板ヲ以テ構造シ且ツ掃除口ニハ臭氣ニ發散セサル様適當ノ蓋ヲ備フヘシ

五 便所ノ地盤ハ三寸以上ヲ高クシ雨水ノ流入ヲ防クヘシ

六 溜壺周圍ノ地盤ハ十釐石ヨリ漏斗狀ニ句配ヲ付シコンクリート又ハ石煉化厚板等ヲ以テ汚液ノ滲漏セサル様構造スヘシ

第九條 便所ハ時々糞便ヲ汲取リ充溢セシムヘカラス

第十條 傳染病流行ノ際又ハ夏期ニ在ツテハ下水溜下水溝便所并溜等ニハ時々適

當ノ消毒藥ヲ散布スヘシ

第十一條 本則ニ規定シタル諸般ノ義務ハ家屋所有主又ハ管理者ニ於テ其責ニ任スヘシ

第十二條 本則第三條及第八條ニ據リ下水溝又ハ便所ヲ造設シタルトキハ所轄警察署又ハ警察分署ニ届出檢査ヲ請クヘシ

第十三條 警察官吏ハ臨時各邸内ヲ巡視シ掃除ヲ命シ若クハ井戸下水溜下水溝便所并溜ノ修理又ハ改造ヲ命スルコアルヘシ

第十四條 第二條第六條第九條第十條第十二條ヲ犯シタル者又ハ第十三條ノ命令ニ違ヒタル者ハ二日以上五日以下ノ拘留ニ處シ又ハ五十錢以上一圓五十錢以下ノ科料ニ處ス

第十四條第五條第七條ヲ犯シタルモノハ一日ノ拘留ニ處シ又ハ十錢以上一圓以下ノ科料ニ處ス

附則

第十五條 本則ニ於テ市街地ト稱スルハ左ノ市町村ヲ云フ

水戸市 東城次郡磯濱町。大貫町 西茨城郡笠間町 久慈郡太田町 那珂郡湊町。平磯町 行方郡潮來町 新治郡土浦町。石岡町 眞壁郡下館町。下妻町 眞壁町 結城郡結城町。水海道町 北相馬郡取手町 猿嶋郡古河町。境町 稻敷郡龍ヶ崎町。江戸崎町

第十六條 従前ヨリ造設シアル便所ニシテ本則第八條ノ制限ニ適合セサルモノハ脩理又ハ改造ヲ爲ストキ本則ニ依リ構造スヘシ

第十七條 従前ヨリ造設シアル下水溜又ハ下水溝ニシテ本則第三條ノ制限ニ適合セサルモノハ明治二十八年十二月三十一日限り改造スヘシ

第十八條 他ノ規則ニ規定シタル事項ニシテ本則ニ抵触スルモノハ總テ本則ニ據ル

○衛生組合同規則 (明治三十年八月十六日縣令第四十三號)

衛生組合同規則左ノ通相定ム

衛生組合同規則

第一條 市町村内ノ區若クハ大字小字ハ衛生組合同ヲ設クヘシ其區域ハ市町村長之ヲ指定ス

第二條 衛生組合同ハ清潔方法消毒方法其他傳染病豫防法救治ニ關シ協同履行スルヲ以テ目的トス

第三條 市町村ノ住民ハ衛生組合同ニ加入セサルヲ得ス

第四條 衛生組合同ハ市町村長ノ監督ニ屬ス

第五條 衛生組合同ハ正副組長各一名ヲ撰舉スヘシ其任期ハ二年トス

第六條 市町村長ハ其市町村ノ衛生組長及副組長ヲシテ定期又ハ臨時會合セシメ事務ノ審一ヲ計リ消毒方法清潔方法ノ研究ヲナサシムヘシ

第七條 衛生組長ハ左ノ事務ヲ担任シ組長事故アルトキハ副組長之ヲ代理ス

一 組合同代表シ規約履行ノ責ニ任スルヲ

二 組合同共有財產ヲ管理スルヲ

三組合費用ノ収支ニ關スルコト

四警察官吏郡吏市町村長又ハ檢疫委員ノ指示ニ從ヒ清潔方法消毒方法ノ執行ニ
從事スルコト

五其他組合規約ニ定ムル事項

第八條 正副組長ハ時々組合内ヲ巡視シ清潔方法消毒方法ヲ勵行スヘシ

第九條 衛生組合左ノ標準ニ依リ規約ヲ定メ郡市長(郡ハ町村長ヲ經テ)ニ届出テ
認可ヲ受ケ之ヲ履行スヘシ

一邸内清潔規則ニ依リ邸宅内便所並ニ井戸下木溜下水溝芥溜ノ掃除浚渫方法ヲ
設スルコト

二傳染病流行ノ兆アルトキ各自豫防攝生ヲ恪守セシムルコト

三傳染病又ハ其疑アル患者アルトキハ互ニ注意シ速カニ醫師ノ診斷ヲ受ケシム
ルコト

四共同施行ノ清潔及消毒方法ヲ設スルコト

五清潔及消毒方法其他豫防方法ヲ施行スルノ資力ナキモノハ一時組合ノ費用

以テ之ヲ施行スル方法ヲ設スルコト

六交通遮斷ノ場合ニ於テ食品其他需用供給ノ方法ヲ設スルコト

七傳染病患者ノ收容運搬及埋火葬ニ要スル人夫供給ノ方法ヲ設スルコト

八全家傳染病ニ罹リ又ハ獨身患者ニシテ他ニ看護人ナキモノ、看護方法ヲ設ス
ルコト

九傳染病行旅患者アルトキハ市町村ニ於テ救療看護スルニ至ルマテ一時救護ノ
方法ヲ設スルコト

十種痘普及ノ方法ヲ設スルコト

十一隣保相互ノ制裁ヲ以テ傳染病患者ノ隱蔽ヲ防ク方法ヲ設スルコト

十二組合内ニ於テ時々通俗衛生講話會ヲ開ク方法ヲ設スルコト

十三組合共有財産ノ管理方法ヲ設スルコト

十四組合費用ノ收支方法ヲ定ムルコト

十五正副組長ニ報酬ヲ給スルトキハ其額ヲ定ムルコト

○瀛車檢疫施行手續 (明治廿八年六月十七日官第四十號)
瀛車檢疫施行手續左ノ通相定ム

汽車檢疫施行手續

- 一 瀛車檢疫ハ汽車檢疫心得ノ規定ニ據リ之ヲ施行スル事
- 一 檢疫ハ檢疫委員ノ外適宜巡查ヲ以テ補助セシムル事
- 一 檢疫委員及補助員ハ瀛車發着五分前ニ停車場ニ臨ミ左ノ順序ニ據リ檢疫ヲ爲ス事

甲到着シタル瀛車旅人ニ對シテハ一時其下車ヲ止メ順次各室ニ臨檢シ虎列刺患者ノ有無ヲ取調ヘ列車内及其便所等ヲ検査シ尙ホ出口ニ於テ一々旅人ヲ點檢スル事

乙乗車セントスル旅人ニ對シテハ待合所及檢札口ニ於テ前項ニ準シ取調ヲ爲ス

一 虎列刺患者アル時ハ成規ニ據リ迅速豫防消毒ヲ爲ス事

一 停車場ノ便所及下水等ハ時々検査シ嚴重消毒ヲ爲サシムル事

○傳染病豫防細則 (明治二十六年五月十一日縣令甲第十一號)

傳染病豫防細則左之通り相定ム

傳染病豫防細則

第一章 總則

第一條 本則ニ於テ傳染病ト稱スルハ虎列刺腸窒扶私赤痢實扶的里亞發疹窒扶私痘瘡ノ六種ヲ云フ

第二條 市町村ノ衛生主務吏員又ハ警察官吏ハ傳染病患者發生ノ旨主治醫ノ報告ニ接シタルトキハ速カニ病家ニ臨ミ病室器具被服及便所等ノ消毒ヲ施行スル等相當ノ處分ヲ爲スヘシ

第三條 前條醫師ノ報告ニ接セサルモ傳染病ニ疑シキ患者アルトキハ衛生主務吏員又ハ警察官吏ハ醫師ヲシテ之ヲ診察セシメ其見込ニ從ヒ豫防消毒ノ處置ヲ爲

スコト前條ノ如クスヘシ

第四條 傳染病患者ノ自宅治療ヲ爲セル家ハ衛生主務吏員又ハ警察官吏時々之ヲ
巡視シテ豫防ノ方法ヲ守ルヤ否ニ注意スヘシ

第五條 傳染病患者死亡シタルトキハ衛生主務吏員又ハ警察官吏ハ死屍看護人患者
ノ居室其他病毒ニ汚染セル衣服器具等ノ消毒法ヲ行フヘシ

第六條 總テ消毒法ノ實施ニ關シタル吏員人夫等ハ其都度消毒法ヲ行ヒ又患者運
搬器等モ使用シタル毎ニ消毒法ヲ施スヘシ

第七條 郡市長ハ其所轄内ニ傳染病發生シタルトキハ其豫防法ヲ周到ナラシメ又
有病地ノ病勢ト豫防法實施ノ景況トヲ具シテ之ヲ縣知事ニ報告スヘシ

第二章 虎列刺

第八條 虎列刺患者アル家ニ於テハ左ノ豫防法ヲ守ルヘシ

一 患者ハ居室ヲ定メ看病人ノ外ナルヘシ他人ノ交通ヲ絶ツ

二 患者自宅ニ於テ消毒看病行届キ難キモノ及患者若クハ家人ノ望ニ依リテハ避
病院或ハ適當ノ家屋ニ移シテ治療ヲ受ケシムルコト

三 患者ノ居室ハ常ニ掃除シテ清潔ナラシメ空氣ノ流通ヲ良クスルコト

四 患者用ノ便器ニハ蓋覆ヲ具ヘ且ツ滲漏ノ虞ナキモノヲ撰ミ豫メ之ニ石灰乳又
ハ生石灰若クハ石炭酸水ヲ入レ置キ吐瀉物ヲ承ケタル後ハ更ニ前記ノ消毒藥
ヲ澆キ其吐瀉物ハ成ルヘク之ヲ焼却スルコト

但前記ノ消毒藥ヲ購求スルノ暇ナキトキハ藁灰木炭食鹽等ヲ六分ニ混合シ
臨時代用スルモ妨ナシ

五 患者ノ上リタル便所ニハ少クモ糞便料十分ノ一ノ石灰乳五十分一ノ生石灰若
クハ五分一ノ石炭酸水ヲ澆キ(成ルヘク能ク攪拌スヘシ)爾後患者ノ上ル毎ニ
前記ヲ消毒藥ヲ澆ク

六 患者ノ用ヒタル衣服臥具敷物飲食器其他看病人ノ衣服等總テ患者ノ吐瀉物ニ
汚染シ又ハ汚染シタル疑アルモノハ之ヲ取纏メ適當ノ容器ニ入レ置キ消毒
法ヲ行フコト

七 患者ノ身体吐瀉物及ヒ之ニ汚染セルモノニ蚊蠅等ノ集マラサル様注意シ又患

者ノ居室ニ蚊帳ヲ張ルトキハ其蚊帳ノ吐瀉物ニ汚染セサル様注意スルコト
八看病人ハ其衣服ヲ患者ノ吐瀉物ニ觸レサル様注意シ且ツ其吐瀉物及之ニ汚染
セル物品ヲ取扱ヒタルトキハ直ニ石炭酸水又ハ昇汞水ニテ手ヲ洗ヒ更ニ淨水
ニテ洗フコト

九患者ノ居室ニ入レタル飲食物ハ患者ノ外決シテ飲食スヘカラス

十患者ト居テ同フナル者ハ特ニ飲食物ニ注意シ飲料水ニハ必ス煮沸セサレハ用
エサルコト

十一前項ノ外豫防消毒ノ方法ハ都ノ醫師テ指揮ヲ受クルモノトス

第九條 虎列刺發生シタルトキハ病家近傍ノ各家ハ共同シテ左ノ豫防法ヲ守ルヘ
シ

但衛生組合ノ設アル地ニ於テハ衛生組合長ニ於テ其豫防法ヲ各家ニ告知ス
ヘシ

一患者アル家ト猥リニ交通ヲ爲サ、ルコト

二病家ノ井水ハ他家ニ於テ共用セサルコト

但巳、チ得サルトキハ煮沸シテ後之ヲ用フルコト

三芥溜ヲ掃除シ病家ヨリ流ル、下水ノ溢流浸潤ヲ防キ且ツ下水溝ノ破損セルモ
ノハ速カニ改修スルコト

四飲食物ハ熟煮シ用ニ腐敗シ易キモノ及未熟ノ果物其他都テ不消化物ハ用ヒサ
ルコト

五総テ下痢ヲ發シタルモノハ速ニ醫師ノ治療ヲ受ケ且ツ其下痢ノ患者ノ上レル
便所ニハ石灰乳又ハ生石灰若クハ石炭酸水ヲ充分ニ注シ

六前項ノ外必要ノ豫防法ハ醫又ハ衛生主務吏員警察官吏等ノ指揮ヲ受クモノト
ス

第十條 虎列刺流行ノ際下痢若クハ吐瀉スル者アルキハ其瀉下物吐出物ニ石灰乳
又ハ生石灰若クハ石炭酸水ヲ灌キ醫師ノ診斷ヲ受クヘシ

第十一條 虎列刺發生ノ初ニ於テ其蔓延ヲ防キ得ヘシト認ムルキハ左ノ標準ニ依

リ交通遮断ヲ施行スヘシ

- 一 該患者アリタル家一軒立ニ係ルトキハ一家ヲ遮断ス但一家内ト雖モ別棟等判然區別スルヲ得ヘキキハ其部分ノミヲ遮断シ又極メテ病家ニ接近シタル家屋不潔狹矮ニシテ病毒ヲ傳播スルノ虞アルキハ其狀況ニ依リ隣家ヲモ遮断スルコトアルヘシ
- 二 交通遮断施行中ノ家ニ於ケル日用品買入等ノ用務ハ近隣ノ人又ハ適宜ノ取扱人ヲ定メテ之ヲ辨セシムルコト
- 三 交通遮断中ハ市町村吏員又ハ警察官吏ニ於テ其区域内ノ清潔法等ニ注意スルハ勿論醫師ヲシテ区域内ノ各家巡診セシメ且豫防法ヲ諭示セシムルコト
- 四 患者治療器ハ死亡シタハ患者ヲ避病院ニ隔離スル等遮断区域内ノ患者全ク絶シヨリ五日間ヲ經過スルヒ新患者ヲ發生セサルキハ遮断ヲ解除スルコト
- 五 遮断区域内ノ患者絶ヘサルモ區域外ニ患者發生シ病毒已ニ他方ニ及ヒタリト認ムルキハ速ニ遮断解除スルコト

第十二條 交通遮断区域内若クハ曾テ虎列刺ノ流行アリシ不潔ノ場所ニ於テハ左

- ノ方法ニ據リテ消毒的清潔法ヲ施行スヘシ
- 一 下水ハ先ツ生石灰又ハ石灰乳ヲ投シテ能ク攪拌シ次ニ多量ノ水ヲ以テ洗滌シ十分ニ疏通スシムルコト
- 二 芥溜ノ塵芥ハ之ヲ焼却シ若クハ焼却スルヲ得サル場合ニ於テハ石灰乳ヲ周テクシ散布シテ他ノ無害ノ場所ニ運搬シ其取除キタル跡ニ尙ホ生石灰又ハ石灰乳ヲ散布スルコト
- 三 家屋ニハ左ノ方法ニ依リテ大掃除ヲ爲スコト
- 甲 家什ヲ出シ塵ヲ揚ケ建具ヲ外シテ室内ヲ掃除シ其器具疊建具等ハ日光ニ曝ス
- 乙 床下ノ塵芥ヲ除去シ成ヘク其跡ニ乾キタル土砂又ハ石灰ヲ散布スルコト
- 丙 衣服臥具ハ特ニ能ク日光ニ曝シ其汚レタルモノハ洗滌スルコト

第十三條 虎列刺流行ノ虞アルキハ其市町村ニ於テハ左ノ豫防ヲ施行スヘシ

一 芥溜ヲ掃除シ下水ヲ浚濼シ破損ル井戸ハ之ヲ修理スル等一般ニ清潔法ヲ施行スルコト

二路傍便所及ヒ共同便所ニハ日々生石灰又ハ石灰乳ヲ散布スルコト

三 師醫ヲシテ貧民部落ヲ巡診セシムルコト

第三章 腸室扶私赤痢

第十四條 腸室扶私又ハ赤痢患者アル家ニ於テハ左ノ豫防法ヲ守ルハシ

一 患者ノ居室ニハ猥リニ交通ヲ爲サシムルコト

二 患者自宅ニ於テ消毒看病行届キ難キモノ及患者若シハ家人ノ望ニ依リテハ避病院或ハ適當ノ家屋ニ移シテ治療ヲ受ケシムルコト

三 患者ノ居室ハ常ニ掃除シテ清潔ナラシメ空氣ノ流通ヲ良クスルコト

四 患者ノ糞便ヲ取扱フニハ其人ヲ定メ置クコト

五 患者用ノ便器ニハ蓋覆ヲ備ヘ且ツ滲漏ノ虞ナキモノヲ撰ミ豫メ之ニ石灰乳又ハ生石灰若シハ石炭酸水ヲ入レ置キ糞便ヲ承ケタル後ハ更ニ前記ノ消毒藥ヲ澆

キ所定ノ便所ニ移スコト

但前記ノ消毒藥ヲ購求スル暇ナキトキハ精灰木食炭鹽等ヲ充分ニ混合シ臨

時代用スルモ妨ナシ

六 患者ノ上リタル便所ニハ少クモ糞便量十分一ノ石灰若シハ五分一ノ石炭酸水

ヲ澆キ(成ルヘク能ク攪拌スヘシ)爾后患者ノ上ル毎ニ前記ノ消毒藥ヲ澆クコト

七 患者ノ用ヒタル衣服臥具敷物飲食器其他看病人ノ衣服等總テ患者ノ糞便ニ汚

染シ又ハ其疑アルモノハ之ヲ取纏メ適當ノ容器ニ入レ置キ消毒法ヲ行フコト

八 患者ノ身体糞便及ヒ之ニ汚染セルモノニ蚊蠅等ノ集マラサル様注意シ又ハ患

者ノ居室ニ蚊帳ヲ張ルトキハ其ノ蚊帳ノ糞便ニ汚染セサル様注意スルコト

九 看病人ハ衣服ヲ患者ノ糞便ニ觸ラレサル様注意シ且ツ其糞便及ヒ之ニ汚染セル物品ヲ取扱ヒタルトキハ直ニ石炭酸水又ハ昇汞水ニテ手ヲ洗ヒ更ニ浮水ニ

ヲ洗フコト

十患者ト居テ同ナル者ハ特ニ飲食物ニ注意シ飲料水ハ必ラス煮沸セサレハ之ヲ用ヒサルコト

十一前項ノ外必要ノ豫防法ハ醫師又ハ衛生主務吏員警察官吏等ノ指揮ヲ受クルモノトス

第十五條 腸窒扶私又ハ赤痢發生シタルトキハ病家近傍ノ各家ハ共同シテ左ノ豫防法ヲ守ルヘシ

但衛生組合ノ設ケアル地方ニ於テハ衛生組合長ニ於テ其豫防法ヲ各家ニ告知スヘシ

一患者アル家ト成ルヘク交通ヲ爲サハルコト

二病家ノ井水ヲ他家ニ於テ共用セサルコト

但巳ムヲ得サルトキハ煮沸シテ後之ヲ用フルコト

三芥溜ヲ掃除シ病家ヨリ流ル、下水ノ溢流浸潤ヲ防キ且ツ下水溝ノ破損セルモノハ速ニ之ヲ改修スルコト

四飲食物ハ成ルヘク消化シ易キモノヲ用フルコト

五總テ熱性病ニ罹リ又ハ下痢ヲ發シタル者ハ造ニ醫師ノ治療ヲ受クルコト

第六條 腸窒扶私又ハ赤痢患者續々發生スルトキハ市町村ニ於テハ左ノ豫防法ヲ施行スヘシ

一芥溜ヲ掃除シ下水ヲ浚漂シ破損セル井戸ハ之ヲ改修スル等一般ニ清潔法ヲ施行スルコト

二路傍使所及ヒ共同使所ニハ日々生石灰又ハ石灰乳ヲ散布スルコト

三醫師ヲシテ貧民部落ヲ巡診セシムルコト

第四章 實布埜里亞

第十七條 實布埜里亞患者アル家ニ於テハ左ノ豫防法ヲ守ルヘシ

一患者ノ外特ニ兒童アルトキハ成ルヘク兒童ナキ他家ニ避ケシメ而シテ其小學校幼稚園ニ通フ者ナルトキハ三週間ヲ經ル迄學校入園ヲ差止メ其旨ヲ小學校幼稚園ニ報告スルコト

- 一患者ノ居室ニハ無用ノ通チ絶テ兒童ハ一切立入ラシメサルコト
- 二患者ノ居室ハ常ニ掃除シテ清潔ナラシメ空氣ノ流通チ良クスルコト
- 三看病人ハ他ノ兒童ト接近セサル様注意シ且ツ患者ノ居室チ出ツルトキハ先ツ石炭酸水又ハ昇水ニテ手ヲ洗ヒ更ニ淨水ニテ洗フコト
- 四患者ノ痰唾鼻汁ヲ拭ヒタル紙片布片等ハ蓋覆チ有スル容器ニ取纏メテ燒却スルコト又患者ノ含嗽シタル藥水モ石炭酸水チ加ヘ消毒シタル后所定ノ便所ニ入ル、コト
- 五患者ノ玩具飲食器等ハ決シテ他ノ兒童ト共用セシメサルコト
- 六患者ノ用ヒタル衣服臥具敷物玩具飲食器看病人ノ衣服其他總テ患者ノ痰唾鼻汁ニ汚染シ又ハ汚染シタル疑アルモノハ之ヲ取纏メ適當ノ容器ニ入レ置キ消毒法チ行フコト
- 七患者ノ恢復ニ赴クモ醫師ニ於テ全治ト認メ且ツ消毒法チ行ハサル間ハ他ノ兒童ト遊戯セシメサルコト

第十八條 實布埵里亞發生シタルトキハ病家近傍ノ各家ハ共同シテ左ノ豫防法ヲ守ルヘシ

- 一但衛生組合ノ設アル地方ニ於テハ衛生組合長ニ於テ其豫防法チ各家ニ告知スヘシ
 - 一患者アル家ニハ兒童チシテ交通セシメサルコト
 - 二兒童チシテ感冒ニ罹ラシメサル様注意スルコト
 - 三兒童ノ感冒ニ罹ル者アルトキハ速ニ醫師ノ治療チ受ケシムルコト
- 第十九條 實布埵里亞患者頃々發生スルトキハ市町村ニ於テハ左ノ豫防法チ施行スヘシ

- 一醫師チシテ小學校幼稚園ニ就キ其兒童チ診察セシムルコト
- 二小學校幼稚園ノ教員ト協議シテ左ノ豫防チ實行スルコト
- 兒童中咳嗽或ハ發熱スルモノアルキハ速ニ退場セシメ且ツ醫師ノ治療チ受ケシムヘキ旨チ其人ニ勸諭セシムルコト

出頭時刻ヲ晚クシ退場時刻ヲ早クシ兒童ヲシテ朝暮寒冷ノ氣ニ觸レシメサル
コト唱歌其他高聲ヲ發スル課業ヲ廢スルコト教場内處々ニ適宜ノ瓶壺等備ヘ
テ之ニ石炭酸水ヲ入レ置キ生徒ノ痰唾ハ此器中ニ吐カシムルコト

第廿條 前條ノ場合ニ於テハ醫師市町村吏員等ヲ以テ便宜豫防委員ヲ設ケ消毒ノ
方法ヲ綿密ニシ且ツ其委員ヲシテ各家ニ豫防法ヲ諭示セシメ又其病勢ニ依リテ
ハ小學校幼稚園ヲ閉鎖スヘシ

第五章 發疹室扶私

第廿一條 發疹室扶私患者アル家ニ於テハ左ノ豫防法ヲ守ルヘシ

- 一 患者ハ居室ヲ定メ看病人ノ外他人ノ交通ヲ絶ツコト
- 二 患者自宅ニ於テ消毒看護行届キ難キモノ及患者若クハ家人ノ望ニ依リテハ避
病院若クハ適當ノ家屋ニ移シテ治療ヲ受シムルコト
- 三 患者ノ居室ハ常ニ掃除シテ清潔ナラシメ空氣ノ流通ヲ良クスルコト
- 四 看病人患者ノ居室ヲ出ツルトキハ石炭酸水又ハ昇水ニテ手ヲ洗ヒ更ニ淨水

ニテ洗フ

- 五 便器ニハ石炭酸水ヲ入レ置キ患者ノ糞尿ヲ承ケタル后ハ更ニ石炭酸水ヲ灌キ
所定ノ便所ニ移ス
- 六 患者ノ用ヒタル衣服臥具敷物飲食器其他總テ患者ノ身体ニ觸接セルモノ及看
病人ノ衣服ハ適當ノ容器ニ入レ置キ消毒法ヲ行フ

第廿二條 發疹室扶私發生シタルトキハ病家近傍ノ各家ハ共同シテ左ノ豫防法ヲ
守ルヘシ

- 但シ衛生組合ノ設ケアル地方ニ在テハ衛生組合長ニ於テ其豫防ヲ各家ニ告
知スヘシ
- 一 患者アル家ト成ルヘシ交通ヲ爲ササルコト
- 二 家屋ヲ清潔ニシ空氣ノ流通ニ注意スルコト
- 三 身体衣服ヲ清潔ニシ過度ノ勞方露臥夜行等身体ヲ衰弱セシムル行爲ヲ慎ム
- 四 總テ熱性病ニ罹ルモノハ速カニ醫師ノ治療ヲ受クルコト

第二十三條 發疹室扶私患者續々發生スルトキハ其市町村ニ於テハ左ノ豫防法ヲ施行スヘシ

一醫師ヲシテ貧民部落ヲ巡診セシムルコト

二患者アル家屋ニ近接セル各家ニ大掃除ヲ爲サシムルコト

第二十四條 前條ノ場合ニ於テハ醫師市町村吏員等ヲ以テ便宜豫防委員ヲ設ケ消毒法ヲ諭示セシムヘシ

第六章 痘瘡

第二十五條 痘瘡患者アル家ニ於テハ左ノ豫防法ヲ字ルヘシ

一患者ノ外未痘兒ハ勿論再三種ヲ了レルモ種痘後五年以上ヲ經タルモノハ臨時種痘ヲ爲スコト

二患者ノ外ニ兒童アルトキハ成ルヘク兒童ナキ他家ニ避ケシメ而シテ其兒童小學校幼稚園ニ通フ者ナルトキハ三週間ヲ經ルマテ登校入園ヲ差留メ其旨ヲ小學校幼稚園ニ報告スルコト

三患者ハ居室ヲ定メ看病人ノ外他人ノ交通ヲ絶ツ

四患者自宅ニ於テ消毒看護行届キ難キモノ及患者若クハ家人ノ望ニ依リテハ避病院或ハ適當ノ家屋ニ移シテ治療ヲ受ケシムルコト

五患者ノ居室ハ常ニ掃除シテ清潔ナラシメ空氣ノ流通ヲ良クスルコト

六患者ノ居室ニハ蓋覆ヲ有スル壺ヲ備ヘ汚物ノ容器ト爲シ豫メ之ニ石炭酸水ヲ入レ置キ痘漿ヲ拭ヒタル布片紙片又ハ落珈及居室内ノ塵芥等ハ必ス此器中ニ入ル、

但器中ノ汚物ハ鐵鉋屑等ノ燃料ヲ加ヘ石炭油ヲ灌キ之ヲ燒却スルコト

七看病人患者ノ居室ヲ出ツルトキハ先ツ石炭酸水又ハ昇汞水ヲ以テ手ヲ洗ヒ更ニ淨水ニテ洗フコト

八便器ニハ石炭酸水ヲ入レ置キ糞尿ヲ承ケタル後ハ更ニ石炭酸水ヲ灌キ所定ノ便所ニ移スコト

九患者ノ玩具飲食器等ハ決シテ他ノ兒童ト共用セシメサルコト

十患者ノ用ヒタル衣服臥具敷物玩具飲食器看病人ノ衣服其他總テ痘漿ニ汚染シ又ハ汚染シタル疑アルモノハ之ヲ取纏メ適當ノ容器ニ入レ置キ消毒法ヲ行フコト

十一患者ノ身体及痘漿ニ汚染セサルモノニ蚊蠅等ノ集マラサル様之ヲ防シコト
十二患者ノ痘瘡落痂スルモ醫師ニ於テ全治ト認メ入浴換衣シタル后ニ非サレハ他ノ兒童ニ交リ又ハ混浴ノ風呂屋ニ入浴セシムヘカラス

第二十六條 痘瘡發生シタルトキハ病家近傍ノ各家ハ共同シテ左ノ豫防法ヲ守ルヘシ

但衛生組合ノ設アル地方ニ在テハ衛生組合長ニ於テ其豫防法ヲ各家ニ告知スヘシ

一患者アル家ト成ルヘシ交通ヲ爲サ、ルコト

二未痘兒ハ勿論再三種ヲ了レルモ種痘后五年以上ヲ經タルモノハ臨時ニ種痘スルコト

三痘瘡ニ疑ハシキ患者ハ速ニ醫師ノ治療ヲ受クルコト

第二十七條 痘瘡患者續々發生スルトキハ其市町村ニ於テハ消毒ノ施行ニ一層ノ注意ヲ加ヘ且種痘規則第三條ニ依リ臨時ニ種痘ヲ普及セシムヘシ

○再歸熱ニ關スル件 明治二十九年五月二十一日訓令甲第五號 (郡市警町村)

再歸熱ハ一ノ傳染性疾患ニシテ其發作ノ際患者ノ血液ヲ検査スルトキハ必ス()
オーヘルマイエル)ノ螺旋菌ヲ見ル是則其診斷ヲ確証スヘキ病原ナリ從來本邦ニ於テ其流行ヲ徵スヘキ記事ナク隨テ其經驗ニ乏シキカ爲メ醫師ニ於テモ單ニ臨床症候ノミニテ其診斷ヲ爲スニ若ムコアリ現ニ香川兵庫栃木ノ三縣ニ流行スル再歸熱ニ於ケルカ如ク其初メハ之ヲ不全腸窒扶私トシ或ハ之ヲ流行性感胃トシ近日流行蔓延ノ後ニ至リ顯微鏡検査ヲ遂ケ始メテ該病タルヲ知レルカ如キ狀況ナルヲ以テ此際熱性患者ノ多少ニ注意シ一局部ニ於テ續々熱性患者ヲ見ルカ如キ場合ニ於テハ其病症ヲ確メ報告スヘシ

○赤痢病豫防委員設置ノ件 明治三十年八月四日訓令甲第二十二號
(郡市町村)

赤痢有病市町村ハ傳染病豫防法第十五條ニ依リ各五名以上ノ豫防委員ヲ設置シ豫防ノ事務ニ當ラシムヘシ

○傳染病消毒及消毒藥使用方法 明治二十六年五月十五日訓令第七號
傳染病消毒藥使用法左之通更定候條自今此旨趣ニ基キ施行スヘシ

傳染病消毒及消毒藥使用方法

- 第一條 傳染病患者治愈シタルトキハ稀薄ノ石炭酸水ヲ以テ全身ヲ拭淨シタル後直チニ入浴換衣セシムヘシ
- 第二條 傳染病患者ノ死体ハ其襖服ニ石炭酸水ヲ散布シ棺内ニ飲ムヘシ
- 第三條 看病人其他病者ニ汚染シタル病家ノ家人ハ消毒法施行ニ從事シタル吏員人夫等ハ手足ヲ石炭酸水又ハ具永水ニテ消毒スヘシ
- 第四條 患者又ハ死体等ヲ運搬シタル籠籠釣臺戸板ハ使用ノ都度具永水又ハ石炭

酸水ヲ澆クヘシ

- 第五條 虎列刺患者ノ吐瀉物腸竅扶私赤痢患者ノ瀉下物等ノ混入シタル糞池或ハ肥料溜等ハ少クモ糞便量十分一ノ石灰乳若クハ格魯兒石灰水ヲ澆キ能ク攪拌シ其周圍ニハ周テク散布スヘシ
- 第六條 虎列刺患者ノ吐瀉セル土間ニハ其部分ニ充分石灰乳若クハ格魯兒石灰水ヲ澆キ吐瀉物ト共ニ表面ノ土地ヲ掘取り之ヲ燒却シ其跡ニモ尙ホ同上ノ消毒藥ヲ散布スヘシ
- 第七條 虎列刺患者ノ吐瀉物投棄シタル芥溜ニハ其部分ニ石灰乳若クハ格魯兒石灰水ヲ澆キタル後塵芥ヲ燒却シ其跡ニモ尙ホ同上ノ消毒藥ヲ散布スヘシ
- 第八條 虎列刺患者ノ吐瀉物ヲ混入シタル下水ニハ生石灰石灰乳若クハ格魯兒石灰水ヲ澆キ能ク攪拌シタル後多量ノ水ヲ澆テ疏通セシムヘシ
- 第九條 傳染病患者及ヒ看病人ノ着用セル衣服臥具飲食器等總テ病毒汚染ノ虞アリト認メタルモノハ熱氣消毒三十分時間以上若クハ石炭酸水浸漬十二時間以上

ニシテ更ニ淨水ヲ以テ洗フヘシ

第十條 傳染病患者居室ノ疊蓆其他敷物等ハ石炭酸水ヲ散布シ然ル後日光ニ曝シ乾燥セシムヘシ

但汚染甚シキモノハ燒却スヘシ

第十一條 患者ノ居室其他消毒ヲ必要ト認メタル室ハ疊敷物等ヲ揚ケ床下ノ塵芥ヲ燒却シ病毒浸漏ノ虞アル部分ニハ石灰乳若クハ格魯兒石灰ヲ散布シ又ハ昇汞水石炭酸水ヲ以テ拭淨ノ后日光ノ射入空氣ノ流通ヲ良クシ全ク乾燥スル迄家人ノ起臥ヲ禁スヘシ

但止ヲ得サル場合ニ於テ火力ヲ以テ速カニ乾燥セシムヘシ

第二章 消毒藥並熱氣

第十二條 石炭酸水(二十倍) 石炭酸五分 水九十五分

一 本品ヲ以テ衣類等ヲ消毒スルニハ充分浸漏シタル後淨水ヲ以テ更ニ洗濯スヘシ

二 本品ヲ以テ器具室内等ヲ消毒スルニハ拭淨メハ散布シタルノ后更ニ淨水ヲ以テ拭淨スヘシ

三 本品ヲ以テ手足等ヲ消毒スルニハ先ツ本品ヲ以テ洗ヒタル后更ニ淨水ヲ以テ洗フヘシ

第十三條 昇汞水(千倍) 昇汞一分 鹽酸五分 水九百九十四分

一 本品ヲ以テ手足ヲ消毒シ又ハ消毒后使用スヘキ物品ヲ消毒シタルトキハ必ラズ淨水ヲ以テ數回洗滌スヘシ

二 本品ハ猛毒ナルヲ以テ飲食器玩具及飲料水ニ滲透スヘキ場所等ノ消毒ニ用ユヘカラス

三 本品ヲ以テ糞便吐瀉物及ヒ金屬製品ノ消毒ニ用ユヘカラス

第十四條 生石灰 生石灰一分 石灰乳(十倍) 水九分

一 本品ヲ吐瀉物瀉下物下水等ヲ消毒スルニハ其量ノ十分一以上ヲ混シ能ク攪拌

スヘシ

但石灰乳ハ用ニ臨テ製スルヲ可トス

第十五條 硫酸等分ノ水ヲ以テ稀釋シタルモノ

一本品ヲ以テ糞池下木等ヲ消毒スルニハ其同量ヲ混シ能ク攪拌スヘシ

第十六條 熱氣
熱氣消毒ハ適宜ノ裝置ヲ以テ攝氏百度以上ノ熱ヲ與フルコト三十分時以上タルヲ要ス

○傳染病患者報告手續 明治三十二年二月五日縣令甲第五號
傳染病患者報告手續

第一條 此手續ニヨリ報告ヲ要スル傳染病トハ虎列刺、腸室扶斯、赤痢、實扶的里亞、發疹登扶斯及痘瘡ノ六病トス

但六病ノ外ニ傳染性流行病アリテ其勢盛ナルノ兆アルトキハ此手續ニヨリ

報告スヘシ

第二條 傳染病報告ヲ發期終期ノ二トス初診報告ヲ發期報告トシ全瘉死亡又ハ轉症報告ヲ終期報告トス

第三條 傳染病患者ヲ診斷シタル醫師ハ條未書式ニ倣ヒ發期報告ハ診斷ノ後遲クモ廿四時間以内ニ終期報告ハ一週日以内ニ患者所在ノ戸長ヘ報告スヘシ

第四條 (戸長)ニ於テ醫師ノ報告ヲ受領シタルキハ受領ノ年月日及時間ヲ記入シ速ニ之ヲ所轄郡役所ヘ差出シ同時ニ最寄警察署分署若クハ巡查駐在所ヘ通報告スヘシ

第五條 郡役所ニ於テ報告ヲ受領シタルキハ速ニ之ヲ縣廳ヘ送付スヘシ
但病勢激烈ニシテ蔓延ノ兆アリト認ムル場合ハ其狀況ヲ具スヘシ

第六條 傳染報告用紙ハ別途縣廳ヨリ醫師ヘ交付スヘキモ臨時欠乏ノ際ハ醫師ニ於テ別ニ之ヲ調製シ用ユルモ妨ケナシ

第七條 傳染患者ヲ診斷シタル醫師ハ其豫防消毒ノ要旨ヲ其戸主若クハ家族ヘ懇

示スヘシ

第八條 治療中ノ患者ニシテ轉移若クハ休藥シタルキハ其旨患者所在ノ(戸長)へ報告シ又其患者ヲ引受タル醫師ハ終期報告ノ際報告冒頭へ轉醫ト朱記スヘシ
第九條 報告書記載方左ノ如シ

- 一 終期報告ハ印アルモノ、ミヲ記載スヘシ
- 二 發病ノ地名、全原因ハ虎列刺發疹室扶斯報告ニ限り記載スヘシ
- 三 種痘濟否ハ痘疹報告ニ限り記載スヘシ
- 四 備考ハ特發又ハ傳染病并病症ノ寛猛等ヲ記載スヘシ

傳染病 發期 終期 報告

住所 族籍 職業

氏 名

年 齡

一 病名

一 初診ノ年月日及時間

一 終期ノ年月日

一 發病ノ地名

一 發病ノ原因

一 種痘ノ濟否

一 備考

何郡何町村

報告年月日 午前 午後 時分

醫師 氏 名 印

何郡何町村外何ヶ町村

報告受領年月日 午前 午後 時分 (戸長) 氏 名 印

○虎列刺病患者發生シタルキ病原ヲ記シ進報スヘシ 明治十八年九月廿六日甲第百廿六號(郡)

虎虎列刺病患者發生シタルキハ其原因(有病地ヨリカ又ハ有病地ヨリ來ル者ニ接シタルカ又ハ有病地ヨリ來ル荷物等ニ接シタルカ又ハ特發類)ヲ詳記シ其都度報告狀ニ併テ悉報スヘシ此旨相達候事

○虎列刺患者取調書式明治十六年五月五日丙第三十一號(戶長衛生委員)虎列刺病者有之節ハ自今別紙書式ニ準據衛生委員ニ於テ調査シ每週一回取纏メ可施出此旨相達候事

(書式略ス)

○傳染病ニ罹リ身元赤貧ニシテ資力ナキ者救助方明治十七年六月四日甲第一百十一號(郡)

客年太政官第八號公達傳染病ニ罹リ身元赤貧ニシテ資力ナキ者(地方稅衛生費)以テ支辨方被達候處右ハ左ノ條項ニ準據給與候議ト可心得此旨相達候事

第一 戶數割及協議費ノ賦課ヲ免除シタル者並其家族

第二 恤救規則ニ據リ救育米ノ給與ヲ仰ク者並其家族

第三一已(戶主非戶主共)ノ努力工作ヲ以テ僅ニ一家ノ日計ヲ營ム者

○地方病患者報告手續 明治二十年二月廿六日縣令甲第十九號

地方病患者報告手續

第一條 地方病ハ專ラ風土習俗ニ徴シ其病原ヲ探知シ將來豫防改良方法ヲ設クル目的ヲ以テ調査スルモノトス

第二條 地方病ハ脚氣、間歇熱、癩麻質斯ノ三種トス

但三種ノ外一町村若クハ一地方ヲ限局シテ流行スル疾病ハ此手續ニヨリ報告スヘシ

第三條 醫師地方病患者ヲ診察シタルトキハ條末書式ニ倣ヒタル報告表ヲ每半年ニ調製シ(一月七月)十日限リ戶長役場ヲ經テ差出スヘシ

但製表用紙ハ縣廳ヨリ下付スルモノトス

第四條 醫師數名ノ治療ニ係ル患者ハ其主任醫ヨリ報告スヘシ

書式

一郡町村名ハ現ニ發病地ノ郡町村ヲ記入スヘシ
一職業ハ本人ノ現業ヲ詳記シ婦女老幼等ニテ職業ナキモノハ戶主何職業ト記スヘシ

明治何年自何月至何月地方病患者左記ノ通報告候也

何國郡何町村何番地

明治何年何月何日

醫師氏名印

茨城縣知事宛

病名	發熄月日	郡名	町村名	職業	男女別	氏名	年齢

○中毒患者報告手續 明治二十年二月廿六日縣令甲第二十号

中毒患者報告手續

第一條 中毒患者報告ヲ分ツテ發期終期ノ二回トス

第二條 醫師中毒患者ヲ診察シタル日發期ハ第一號書式ニ倣ヒ診察后二日以内終期ハ第二號書式ニ倣ヒ全瘡死亡又ハ轉症ノ際患者所在ノ戶長役場ヲ經テ報告スヘシ

第三條 醫師數名ノ治療ニ係ル患者ハ其主任醫ヨリ報告スヘシ

第一號書式 (用紙半紙)

中毒患者發期報告

茨城縣何國郡何町村番地居住(寄留)族籍

職業何某父母兄弟姉妹等

氏名

何年何ヶ月

右之者何年月日午前(后)何時何所ニ於テ何々ノ際何品(羹、燒、干等)ヲ區別スヘシ(凡ソ何程飲(食)シ何々症狀ヲ呈シ(何年月日午前(后)何時死亡)候ニ付何々中毒ト致診斷候右ハ本人ニ何々(何々タルヲ知ラサルカ又ハ誤用シタルカ若シ

ハ故意ナルカヲ詳記スヘシシタル原因ニ有之候(毒物現品相添)此段報告仕候也

何郡町村番地

醫師氏 名印

年月日
茨城縣知事宛

前書之通報告ニ付進達候也

(戸長) 氏 名印

第二號書式 (用紙半紙)

中毒患者終期報告

茨城縣何國郡町村番地居住(寄留)

族籍職業何某父母兄弟姉妹等

氏 名印

何年何月

右之者何々中毒ニ罹リ候旨報告致置候處何年何月何日(全治死亡)又ハ何々ニ轉症致候此段報告仕候也

何郡町村番地

醫師氏 名印

年月日
茨城縣知事宛

前書之通報告ニ付進達候也

戸長 氏 名印

○患者表様式 明治廿二年五月十三日縣令乙第十二號

患者表別紙様式ニ準シ調製本年七月以降可キ差出ス旨開業醫師へ通達スヘシ(書式略ス)

○勸業同業組合準則 明治十八年二月三日甲第九號

同業者組合ヲ設ケ規約ヲ定メ營業上福利ヲ増進シ濫惡ノ弊害ヲ矯正スルハ當今ノ要務ニ付今般同業組合準則左ノ通相定候條漸次該則ニ基キ組合ヲ結ビ規約ヲ

作認可ヲ受クヘシ此ヲ布達候事

但別段ノ規則ヲ以テ定ムル所ノ組合ハ此限ニテテス

同業組合準則

第一條 農商工ノ業ニ従事スル者ニシテ同業者或ハ其營業上ノ利害ヲ共ニスル者
組合ヲ設ケントスルキハ適宜ニ地區ヲ定メ其地區内同業者四分三以上ノ同意ヲ
以テ規約ヲ作り本廳ノ認可ヲ受クヘシ

第二條 同業組合ハ同盟中營業上ノ弊害ヲ矯メ其利益ヲ圖ルヲ以テ目的トナスヘ

第三條 同業組合ノ規約ニ揚クヘキ事項ハ左ノ如シ

第一項 組合ヲ組織スル業名及組合ノ名稱

第二項 組合ノ地區及事務所ノ位置

第三項 目的及方法

第四項 役員ノ選舉法及權限

第五項 會議ニ關スル規程

第六項 加入者及退去者ニ關スル規程

第七項 費用ノ徴収及賦課法

第八項 違約者處分ノ方法

右ノ外組合ニ於テ必要トナス事項

第四條 (明治三十一年五月十七日縣令第十八号ヲ以テ削除)

第五條 同業組合ハ同業組合ノ資格ヲ以テ營利事業ヲナスコトヲ得ス

第六條 同業組合ハ總テ其事項報告書及費用決算表ヲ作り毎年本廳ニ差出ス可シ

第七條 規約ヲ改正スルキハ更ニ認可ヲ受クヘシ

第八條 分立又ハ合併スルキハ更ニ規約ヲ作り認可ヲ受クヘシ

第九條 同業組合ニ於テ聯合會ヲ設ケ其規約ヲ作ルキハ本廳ノ認可ヲ受クヘシ

但其聯合ニ府縣以上ニ渉ルキハ開會地管轄廳ヲ經由シテ農商務省ノ認可ヲ
受クヘシ

○蠶糸茶業組合規約届山ノ件 明治二十三年六月二日縣令甲第二十八號

蠶糸組合並ニ茶業組合規約ハ自今四月十五日限届出認可ヲ請フヘシ

○農商工通信規則 明治十七年十月三日乙第五十六號 (郡町村)

本縣農商工通信規則左ノ通相定候條此旨相達候事

農商工通信規則

- 第一條 農商工山林ニ關スル通信ハ此規則ニ據リ處辨スマモノトス
- 第二條 郡書記及(戶長)(勸業委員)ヲ以テ農商工通信員ト爲シ農商工山林ニ關スル通信ノ事務ヲ管掌セシム
- 第三條 通信員ハ物産ノ盛衰ヲ察シ百貨ノ動靜ヲ明ニシ兼運輸交通ノ便否ヲ考各種業務ノ得失ヲ較量スルハ勿論農商工山林ニ直接間接ノ關係ヲ有スル事物ハ宜シク周密調査ヲ加ヘ通信報告以テ興業殖産ノ意思ヲ振起セシムルヲ目的ト爲ヘシ
- 第四條 郡役所ハ郡内通信員ノ報告ヲ受ケ若シハ郡役所ニ於テ觀察調査スル所ヲ

以テ縣廳ニ報告シ或ハ縣廳ノ通報等ヲ得テ適宜處弁スルモノトス

第五條 (戶長勸業委員)ハ其部内ノ通信事務ニ任シ實地ヲ觀察シ調査スルモノヲ以テ縣廳又ハ郡役所ニ報告シ或ハ縣廳若シハ郡役所ノ通報等ヲ得テ之レヲ其部内ニ報道スルモノトス

第六條 (戶長勸業委員)ニ於テ處辨スル事務ハ總テ之レカ協議ヲ遂ケ其通信報告ニ係ル文書ニハ連署スルモノトス

第七條 通信委員ハ主務局ヨリ農商工山林ニ關シ諮問アルトキハ之カ調査ヲ遂ケ直ニニ應答スルヲ得

第八條 (戶長勸業委員)ニ於テ縣廳及郡長ノ諮問ヲ受ケタルトキハ亦前條ニ同シ
第九條 通信員ニ於テ農商工山林ニ關シ質問ヲ要スル事件アルトキハ其事由ヲ詳記シ主務局ヘ質問スルヲ得

第十條 第七條ニ據リ通信員ト主務局トノ間ニ於テ直ニ文書ノ往答ヲナシタルトキハ其寫ヲ添縣廳ニ(戶長勸業委員ハ郡役所ヲ經由)申報シ及第九條ニ依リ質問

チナストキハ縣廳ヲ經由スヘシ

第十一條 通信ハ分ツテ定期報臨時報ノ二種トナス

第十二條 定期報トハ通信事件中特ニ報道期限ヲ定メタルモノヲ云フ

第十三條 臨時報トハ通信事件中報告期限アルト否トニ關セズ臨時報告ヲ要スヘキモノヲ云フ

但非常ノ變異ニ係ル場合ハ急報スヘシ

第十四條 通信事項及其期限等ハ別ニ定ムル所ノ様式ニ據ルヘシ

第十五條 報告上物質形狀等文辭ニ尺シ難キモノハ圖書寫眞雜形若クハ見本等ヲ添數量比例歩台等ニ係ルモノハ可成表ニ収ムヘシ

第十六條 通信ハ可成平易ノ文字ヲ用井又數量歩台等ニシテ地方慣用ノ稱呼アルモノ及ヒ方言等ハ解釋ヲ加フヘシ

第十七條 定期報及臨時報ノ外農商工山林ニ關シ伺報告ヲ要スヘキ事項左ノ如ク一郡村ノ調査書會社組合協會等ノ規約並報告書又ハ著述編纂翻譯書ノ類若クハ

考証俾補アル古文書等ハ可成現本ヲ送致スヘシ但書籍古文書等冊數浩濶其他ノ

事故ニ依リ現本送致シ難キモノハ題名目錄及其要旨ノミヲ報告スルモ妨ケナシ

二有功者ノ事蹟及ヒ履歷等ハ古今ニ拘ハラヌ調査報告スヘシ

三改良發明試驗ノ成績及該事ニ關スル各地方從來ノ習慣新設ノ方法等ハ可成周

密ニ報告スヘシ

四博覽會共進會品評會集談會及ヒ勸業事務講究會等ノ開設アルトキハ其開閉期日及ヒ之レカ景況顛末ヲ報告スヘシ

第十八條 縣廳ニ於テハ郡村ヨリ通信スル所ノ事項ヲ主務省ニ報告シ或ハ其要領ヲ勸業報告若クハ年報等ニ登載シ以テ一般ニ報道スルコトアルヘシ

○土地區畫改正組合格約例 明治二十二年一月十二日縣令甲第一號

土地區畫改正チナス爲ノ町村ニ於テ組合ヲ設クルトキハ左ノ規約例ニ準據シ縣廳ノ認可ヲ受クヘシ

土地區畫改正組合格約例

第一條 當組合ハ明治二十一年本縣諭告第三号ニ基キ土地ノ區畫ヲ改正スル爲メ之ヲ設置スルモノトス

第二條 當組合ハ何郡何町村(又ハ何町村字何々)土地區畫改正組合ト稱シ本村内(又ハ何町村字何々)ニ土地ヲ所有スル者ハ都テ此規約ヲ遵守スルモノトス

第三條 土地區畫ノ改正ハ本年ヨリ着手シ向何年ヲ期シ成功スルモノトス

第四條 當組合ニ協議員若干名普通ノ撰舉法ニ依リ組合員ノ投票ヲ以テ之ヲ置キ其任期ハ土地區畫改正埃功ノ日ヲ以テ滿限トス

但欠員アルトキハ其時々補欠撰舉ヲナスモノトス

第五條 協議委員中委員長一名會計係若干名互撰ヲ以テ之ヲ定ム

第六條 協議委員ハ土地區畫改正ニ關スル一切ノ事件ヲ取扱フモノトス

第七條 會計係ハ組合ニ關スル經費ノ収支ヲ取扱フモノトス

第八條 協議委員ニ當撰スルモノハ撰リニ之ヲ辞スルヲ得ス

第九條 協議委員ハ現場ノ指揮ヲ爲シ又ハ怠慢者ヲ督勵スルモノトス

第十條 協議委員ハ常ニ土地ノ狀況ニ注目シ改正上交換又ハ賣買ヲ必要ト認ムルトキハ其所有者ヲ勧誘スルモノトス

第十一條 左ノ事項ハ必ス協議委員會ノ評定ヲ經ルモノトス

一 溝渠作道等ノ新設變換及幅員

一 敷人ニ連帶スル畦畔物干場等ノ除却變換

一 土地區畫ノ程度ニ増減ヲ生スル場合

一 土地ノ交換又ハ賣買ニ付甲乙異議アル場合

一 土地價格ノ評定ヲ要スル場合

一 組合ニ係ル費用ノ豫算決算及賦課方法

右ノ外重要ノ件

第十二條 協議委員會ハ委員長之ヲ召集ス

第十三條 協議委員會ノ議接ハ委員長之ヲ發ス

第十四條 協議委員會ハ半數以上出席スルニアリサレハ之ヲ開クヲ得ス

第十五條 協議委員會ハ専ラ協議ヲ本旨ト爲スト雖モ時宜ニ依リ普通ノ會議法ヲ用ユルモ妨ケナシ

但會長ヲ委員長ヲ以テ之ニ充ツ委員長事故アルトキハ委員中ヨリ假會長ヲ互撰スルモノトス

第十六條 協議委員會ニ於テ評定シタル事件ハ組合員之ヲ循守スルモノトス

第十七條 改正上土地ノ交換又ハ賣買ヲ必要ト爲スキハ地主互ニ協議ヲ遂クル勿論ナリト雖モ若シ直接ノ協議整ハサル場合ニ於テ委員長ニ申出協議委員會ノ評定ヲ乞フモノトス

第十八條 組合ノ公共ニ係ル費用ハ組合員之ヲ負擔シ自己ノ所有地改正ニ係ル費用ハ各自ニ於テ負擔スルモノトス

○土地區畫改正組合ヲ設ケ認可ヲ受クル件 明治二十年一月十二日 縣令乙第三号(郡町村)

今般縣令甲第一號ヲ以テ土地區畫改正組合同規約例發布候ニ付テハ速ニ組合ヲ設

ケ認可ヲ得候際取計フヘシ

○土地區畫改正組合主務者ヲ設クル件 明治二十二年一月十二日 縣令丙第二号(郡)

今般縣令甲第一号ヲ以テ土地區畫改正組合同規約例相定メ候ニ付テハ郡役所ニ於テ特ニ二名以上ノ主務員ヲ置キ専ラ該事務ヲ取扱ハシムヘシ

但主務員人名ハ本月中ニ届出ツヘシ

○土地區畫改正委員心得書 明治二十二年二月十二日 告示第二号

今般縣令甲第一號ヲ以テ土地區畫改正組合同規約發布候就テハ每町村ニ一名若クハ二名土地區畫改正委員ヲ囑托ス其心得書左ノ如シ

土地區畫改正委員心得書

第一條 委員ハ知事ノ囑托ニ依リ該町村ノ土地區畫改正事業ヲ幹旋スルモノトス
第二條 委員ハ時々町村ヲ巡視シ明治廿一年諭告第三号及廿四年縣令甲第八十三號ノ旨趣ヲ体シ懇切ニ示諭スヘシ

第三條 委員ハ本年縣令甲第一號土地區畫改正組合同規約例ニ依リ組合ノ設立ヲ勸誘スヘシ

第四條 委員ハ土地區畫改正組合協議委員ヲ獎勵シ又協議委員會ニ加ハリ意見ヲ述ルコトヲ得

第五條 委員ハ土地區畫改正事務ニ付縣廳及郡役所委員ニ關照シ其成功ヲ圖ルヘシ

第六條 委員ハ土地區畫改正ニ關シ知事ニ意見ヲ開陳スルコトヲ得

第七條 委員ハ改正ノ實況ヲ時々知事ニ報告スルコトヲ要ス

第八條 委員ハ前各條ノ外土地區畫改正ニ關シ疑義ニ渡リ又ハ必要ト認ムル事件アルキハ其時々知事ニ稟議スヘシ

○農會設置規程 明治廿七年九月一日縣令第三十七號

農會設置規程

第一條 農會ハ町村農會郡農會縣農會ノ三種トス

町村農會郡農會ハ土地ノ狀況ニ依リ數町村又ハ數郡ヲ併セテ一農會ヲ設クルコトヲ得

第二條 各農會ノ組織ハ左ノ方法ニ依ル

一 町村農會ハ其町村ニ居住シ土地ヲ所有スル者又ハ農業上志者ノ協議ヲ以テ成立スルモノトス

二 郡農會ハ町村農會員ヲ以テ組織スルモノトス

三 縣農會ハ郡農會員十人毎ニ一人ヨリ多カラサル割合ヲ以テ互選セラレタル會員ノ組織ニナルモノトス

四 郡農會縣農會ニ於テハ前二項ノ外其會ノ公撰ヲ以テ農業上學識經驗又ハ功勞アル者ヲ會員ト爲スコトヲ得

第三條 各農會ニ左ノ役員ヲ置ク但町村農會ニ於テハ其狀況ニ依リ便宜役員ヲ省畧スルコトヲ得

會長 一名 副會長 一名 幹事 二名 評議員 若干名 書記 若

于名

第四條 會長副會長幹事評議員ハ其會員ノ互撰ニ依リ書記ハ會長之ヲ撰任ス

第五條 會長副會長幹事評議員ハ名譽職トス

第六條 會長副會長幹事評議員ノ任期ハ滿二ケ年トス但滿期後再撰セラル、ヲ得

第七條 會長ハ農會ヲ代表シ會務ヲ總理シ總會及評議員會ヲ招集シ且會議ノ議長

トナリ議事ヲ整理ス

第八條 副會長ハ會長事故アルトキ其職務ヲ代理ス

第十條 評議員ハ評議員會ノ議員ト爲リ總會ノ委任ヲ受ケタル事項ヲ議決シ又ハ

會長ノ諮問ニ對シ意見ヲ述フルモノトス

第十一條 書記ハ會長ノ指揮ヲ受ケ庶務ニ従事ス

第十二條 各農會ハ少クモ一ケ年二回總會ヲ開クモノトス

第十三條 各農會ノ總會ニ於テ議定スヘキ事項ノ概目左ノ如シ

一 會則ニ關スル事

二 役員撰舉ニ關スル事

三 事業ノ方針及施設ニ關スル事

四 經費ノ収支豫算決算ニ關スル事

第十四條 町村農會ノ會務概目左ノ如シ

一 町村ニ於ケル農産ノ改良ヲ圖リ必要ノ事業ヲ施設スル事

二 農業上有益ノ事件ヲ會員又ハ各農會ニ報告スル事

三 官廳又ハ公署ニ對シ農業上ニ關スル意見ヲ開陳シ又ハ其諮問ニ答フル事

第十五條 郡農會ノ會務概目左ノ如シ

一 郡ニ於ケル農事ノ改良ヲ圖リ其利害得失ヲ精査シ必要ノ事業ヲ施設スル事

二 農業上有益ノ事件ヲ其會員又ハ各農會ニ報告スル事

三 官廳ニ對シ農業上ニ關スル意見ヲ開陳シ又ハ其諮問ニ答フル事

第十六條 縣農會ノ會務概目左ノ如シ

一 農業上ニ關スル百般ノ利害ヲ精査討究スル事

二管内農事ノ改良進歩ヲ圖リ必要ノ事業ヲ施設スル事

三農事上有益ノ事件ヲ其會員又ハ各農會ニ報告スル事

四官廳ニ對シ農業上ニ關スル意見ヲ開陳シ又ハ其諮問ニ答フル事

第十七條 各農會ハ互ニ氣脈聯通ノ方法ヲ定メ之ヲ其會則ニ揭シヘシ

第十八條 前數條ノ外各農會ニ於テ必要トスル事項ハ各其會ノ情況ニ從ヒ規定スヘシ

第十九條 市ニ於テ農會ヲ設立セシトスルトキハ町村農會ノ例ニ據ルヘシ

市農會ハ會員十人毎ニ一人ヨリ多カラサル割合ヲ以テ縣農會員ヲ撰出スルモノトス

附則

第二十條 郡農會ハ其郡内ニ於ケル町村半數以上ノ町村農會ヲ成立シタル後ニ於テ設立シ縣農會ハ管内半數以上ノ郡農會ヲ成立シタル後ニ於テ設立スルモノトス

○農會設置規程ノ施行ニ關スル件 明治廿七年九月一日訓令甲第十二號(郡市町村)

本縣令第三十七號ヲ以テ農會設置規程發布候處右ハ農業改良上目下ノ急務ニシテ其組織ノ如何ハ改良ノ成否ニ關スルコト不埒ニ付此際農會ノ設立ヲ誘導シ目的ヲ貫徹候様厚シ注意スヘシ

但既ニ設立セル農會ハ漸時本則ニ據リ組織改正候様訓諭スヘシ

○農會設置誘導方之件 明治二十八年十月四日訓令甲第十五號(郡市町村)

農會設置誘導方ニ關シテハ明治二十七年甲第十二號ヲ以テ及訓令候處于今農會設置セサル向不埒右ハ農事改良上必要ノ機關ニ有之候條此際速ニ町村農會ヲ設置セシメ尋テ郡農會設立方精々勸誘獎勵スヘシ

○害虫驅除豫防規則 明治三十年七月十日縣令第三十六號

明治二十九年三月第十七號依リ害虫驅除豫防規則左ノ通り定ム

但明治十九年五月茨城縣甲第四十七號田圃虫害豫防規則ハ廢止ス

害虫驅除豫防規則

第一條 本縣管内ニ於テ驅除豫防スヘキ害虫ハ左ノ種類トス

- 一 螟虫 スイムシ シンムシ 一 苞虫 ツトムシ ツトコムシ 一 葉卷虫 ハマクリムシ ハマキムシ
- 一 浮塵子 ウンカ ムスカムシ 一 椿象 オーカムシ 一 蚜虫 アフラムシ
- 一金龜子 コカチムシ 一地蠶 ヨトウムシ テキリムシ 一 桑蠶 シヤクトリムシ シハヌスヒト
- 一 蛄蚶 ケムシ 一天牛 カシキリムシ シハキリムシ

第二條 害虫驅除豫防ノ方法左ノ如シ

第一 螟虫

- 一 田畑及苗代ノ傍ニ點火シテ蛾ヲ誘殺スヘシ
- 二 卵ヲ搜索驅除スヘシ
- 三 被害ノ藁稈ハ燒棄スヘシ
- 四 被害ノ殘株ハ掘取り之ヲ燒クカ若クハ堆肥トナシ蟄伏セル幼虫及蛹ヲ蒸

殺スヘシ

第二 苞虫

- 一 田傍ニ點火シテ蛾ヲ誘殺スヘシ
- 二 苞蠶ノ巢ニ潛伏セル幼虫ヲ捕殺スヘシ

第三 葉卷虫

- 一 捕虫網ヲ以テ蝶ヲ捕殺スヘシ
- 二 捲束セシ稻葉ヲ梳リ驅殺スヘシ
- 三 冬期田畔路傍ノ雜草ヲ燒盡スヘシ

第四 浮塵子

- 一 被害ノ稻田ニハ水ヲ張り之ニ鯨油又ハ石油ヲ注キ水上ニ落下セシメテ驅除スヘシ
- 二 點火誘殺法ヲ行フヘシ
- 三 畦畔ノ雜草ヲ刈リ之ヲ燒盡スヘシ

第五椿象

- 一 發生ノ初期ニアリテハ石灰水烟葉莖ノ煮汁等ヲ以テ之ヲ驅殺スヘシ
- 二 早朝捕虫網ヲ以テ捕獲スヘシ

第六蚜虫

- 一 早朝石灰水灰汁石鹼水煙草煮汁等ヲ散布スヘシ

第七金龜子

- 一 點火誘殺スヘシ
- 二 早朝又ハ雨後ニ於テ捕殺スヘシ

第八地蠶

- 一 卵及蛹蛾ヲ搜索捕殺スヘシ
- 二 畑ノ周圍ニ溝ヲ堀リ陷落スルモノヲ捕殺スヘシ

第九桑蝻

- 一 桑園ヲ見廻リ幻虫ヲ搜索斂殺スヘシ

- 二 冬期落葉セハ之ヲ燒却スヘシ

第十蚜蟬

- 一 點火誘殺法ヲ行フヘシ
- 二 枝葉ニ群集セル仔虫ヲ捕殺スヘシ

第十一天牛

- 一 夜間篝火ヲ以テ誘殺スヘシ
- 二 根莖桑ノ枝條ニ被害ノ痕跡アレハ之ヲ切取り燒却スヘシ
- 三 被害ノ個所ヨリシテ針金ヲ通シテ之ヲ驅殺スヘシ

第三條 害虫田畑ニ發生シ又ハ發生ノ兆アルトキハ田畑作人ハ直ニ驅除豫防ニ着手シ同時ニ其旨口頭又ハ書面ヲ以テ市町村長ニ届出テ町村長ハ郡長ニ郡市長ハ知事ニ急報スヘシ

市町村長郡長ニ於テ害虫田畑ニ發生シ又ハ發生ノ兆アルヲ發見シタルハ亦同シ
 第四條 郡市長ニ於テ前條ノ報告ヲナストキハ左ノ事項ヲ記載スヘシ

一 害虫ノ種類及其町村

二 驅除豫防法ヲ施行スヘキ區域並期限

三 被害作物ノ種類

四 被害見積反別

第五條 本則第一條ニ列記スル虫類以外ノ害虫發生シ又ハ發生ノ兆アルヲ發見タルトキ田畑作人ニ在テハ適宜驅除豫防ニ着手シ之ト同時ニ本則第三條ノ手續ヲナシ又町村長ニ在テハ郡長ニ郡市長ハ本則第四條ノ事項ヲ具シ知事ニ急報スヘシ

第六條 害虫驅除豫防法第三條ニヨリ驅除豫防ノ施行ヲ命令シタルトキハ郡長ハ町村長ニ市町村長ハ該田畑作人ヲシテ驅除豫防ヲ施行セシムヘシ

第七條 前條ノ場合ニ於テ田畑作人驅除豫防ヲ施行セサルトキハ郡長ハ直ニ町村長ニ命ジ町村費ヲ以テ之ヲ施行セシメ市長ハ市費ヲ以テ之ヲ施行シ其費用ハ害虫驅除豫防法第三條第二項ニヨリ其田畑作人ヨリ徴收スヘシ

第八條 害虫蔓延シタルトキ又ハ蔓延ノ兆アルトキ若シハ害虫田畑以外ノ地ニ發生シタルトキ又ハ發生ノ虞アルトキハ町村長ハ郡長ニ郡市長ハ本則第四條ノ事項ヲ具シ知事ニ急報スヘシ

第九條 前條ニ於テ驅除豫防施行ノ命令ヲ發シタルトキハ郡長ハ町村長ニ命ジ町村費ヲ以テ之ヲ施行セシメ市長ハ市費ヲ以テ之ヲ施行スヘシ

第十條 本則第八條ノ場合ニ於テ夫役ヲ賦課スル必要アリト認ムルトキハ郡市長ハ豫メ賦課ノ區域及課率ヲ定メ知事ノ指揮ヲ受クヘシ

第十一條 害虫豫防法第六條ニ依リ溝渠ヲ設ケ又ハ農作物醜穢刈株雜草ヲ拔棄若シハ燒棄スル必要アリト認ムルトキハ町村長ハ郡長ヲ經郡市長ハ意見ヲ具シ知事ノ指揮ヲ受クヘシ

第十二條 害虫驅除豫防ノ施行期間ハ其景況ヲ町村長ヨリ郡長ニ郡市長ヨリ知事ニ時々報告スヘシ

第十三條 害虫蔓延ノ兆アルトキハ町村長ハ隣接市町村長ヘ市長ハ隣接郡長及町

村長へ通報スヘシ

第十四條 害虫驅除豫防ニ關スル事項ハ左ノ表式ニヨリ町村長ハ翌年四月十日マ
テニ郡長ニ報告シ郡市長ハ其月二十日マテニ知事ニ報告スヘシ

書式ハ零ス

○害虫驅除豫防ニ關スル件 明治三十年七月二十六日 (郡市町村)
訓令甲第十九號

農作物ヲ害スル虫類ノ發生シテ其蔓延ノ甚シキニ至リテハ農家ヲシテ秋收ヲ睹
ル能サルノ悲境ニ陥ラシムルヲ往々是アリトス虫害ノ農家ニ及ホス關係寔ニ大
ナリト謂フヘシ近來幸ニシテ其害ノ甚シキヲ見スト雖トモ萬一不幸ニシテ之ニ
罹リ其勢猖獗ヲ極ムルニ於テハ畜ニ一家ノ辛苦經營ヲシテ水泡ニ歸セシムルノ
ミナラス其影響ノ國家經濟上ニ及ホス所亦少々ニアラサルナリ今ヤ害虫發生ノ
時期ニ際セリ依テ特ニ左ノ各項ヲ參酌シ本年七月縣令第三十六號害虫驅除豫防
規則運用ノ實ヲ舉ケテ農作物ヲ保護シ國民利福ノ増進ヲ企圖スル襟深ク注意
スヘシ

一 農家往々害虫ノ發生及之カ撲滅ヲ氣候ノ如何ニ由來スルモノト迷信シ從テ其
驅除豫防方ヲ忽諸ニスルモノ、如シ故ニ當局者ニ在テハ常ニカメテ之カ智識
ノ發啓ニ注意シ各自奪テ其驅除豫防ニ從事シ自己ノ利益ヲ全フセントスルノ
念慮ヲ養成スルヲニ勉ムルコト

一 害虫ノ驅除ハ單ニ其有害ノ時期ニ於テ之ヲ行フ而已ナラス卵仔成虫ノキニ於
テモ必ラス之カ抹集捕獲ヲ行ヒ以テ其撲滅ヲ謀ラサル可ラス然ルニ農家目下
ノ狀態ヲ通觀スルニ斯ル周密ナル驅除ヲ行フハ僅カニ一二ノ種類ニ止マリ其
他ノ害虫ニ對シテハ殆ト顧慮セサルモノ、如シ故ニ當局者平素能ク此點ニ着
眼シ苟クモ害虫ノ原因トナルヘキモノアラハ悉ク之カ驅除撲滅ヲ謀ルコト

一 害虫ニ寄生シ又ハ之ヲ食餌トスル各種ノ動物及氣候ノ寒威等ハ大ニ害虫ノ蕃
殖ヲ妨止スル自然的ノ恩恵ナルニ依リ農家ヲシテ須ラソ此等ノ有益鳥此類ヲ
保護セシムルト共ニ又害虫潜伏ノ虞アル所ハ宜シク開放シテ寒氣ニ曝露セシ
メ此自然的ノ恩恵ヲ空フセシメサルヲ謀ルコト

一害虫ノ驅除豫防方ハ其發生ノ初期ニ於テ施行スルヲ最モ有効トス故ニ各農會等ノ團體ヲシテ平素充分ノ用意ヲナシ其時機ヲ失セシメサルヲ注心スルヲ一害虫ヲ驅除スルニハ器具ヲ要スヘキニヨリ捕殺網誘蛾燈等ハ各自若クハ各團體ニ於テ準備スルヲ

○田圃作物災害報告 明治十八年七月廿八日乙第八十二號 (郡町村)

暴風雨若クハ出水等不時ノ災害ニテ田圃諸作物ノ損害アルニ際シ臨時報告候節ハ爾來左ノ書式ニ準シ無遲緩報告可致此旨相達候事

何々臨時報告

何郡何村外何ケ村

戸長若クハ勸業委員 何 ノ 誰

一被害ノ景狀 暴風雨若クハ出水降雹等被害ノ景狀ヲ記スヘシ

一被害ノ時間 何年何月何時ニ起リテ何時何十分ニ至リテ止ム云々

一被害田畑反別并ニ諸作物ノ種別 原反別ヲ掲記シ被害反別ハ内譯ニスヘシ

一被害收穫減量ノ分合

但虫害ノ形容性質變化發生ノ原因驅除法等ヲ記スヘシ

右報告仕候也

年 月 日 右何 之 誰
縣 令 宛

○米麥作柄報告ノ件 明治廿三年十一月十八日訓令第二百二號 (郡市)

米麥作柄報告ノ節ハ前期十ケ年間收穫高ノ平均數ヲ以テ後期十ケ年間ノ平年作ト定メ其増減歩合ハ百分率ヲ用ユヘシ

但明治廿三年ヨリ向フ十ケ年間ハ明治十三年ヨリ明治廿二年ニ至ル十ケ年間收穫高ノ平均數ヲ取り自后毎如遞次此例ニ據ルヘシ

○茨城縣簡易農學校規則 明治二十九年二月四日縣令第十一號

茨城縣簡易農學校規則左之通相定

茨城縣簡易農學校規則

第一章 總則

第一條 本校ハ交通部令第十九号簡易農學校規程ニ基キ農事ニ關スル適切ノ學術ヲ教授シ以テ將來良農タルヘキ素性ヲ養成スル處トス

第二條 本校ニ附屬農場ヲ置キ實業ヲ練習セシメ豫テ農事ノ必要ノ試驗ヲナサシムルモノトス

第三條 本校ノ修業年限ヲ二ケ年トシ一ケ年ヲ一學年トシ更ニ學年ヲ分テ前期及後期トス

第四條 本校ニ別科ヲ置キ農事講習所卒業生ヲシテ時々第七條ノ某課目ヲ撰修セシムルモノトス

但其期日ハ毎周五週日以内トス

第五條 本校生徒ノ定員ハ本科ヲ百名別科ヲ五十名トス

第六條 生徒ノ學資ハ自辨トシ授業料ハ徴收セズ

第二章 學科

第七條 本校ノ學科ハ算術物理化學博物ノ大意耕種園藝肥料土壤農具排水灌溉病虫害養蚕畜農產製造氣象造林水産ノ大意農業工事農業簿記農業經濟及實習トス

第八條 本校各學科ノ配當時數ヲ定ムルヲ左ノ如シ (表式畧ス)

第三章 學年學期及休業

第九條 學年ハ四月一日ニ始マリ翌年三月三十一日ニ終ル

第十條 一學年ヲ分テ二學期トス前期ハ四月一日ヨリ九月三十日ニ至リ後期ハ十月一日ヨリ翌年三月三十一日ニ至ル

第十一條 一學年内ノ休業日ヲ定ムルヲ左ノ如シ但臨時休業ハ其都度之ヲ定ム

日曜日 大祭祝日 夏季休業(自八月一日至全月卅一日) 冬季休業(自十二月廿六日至翌年一月七日) 學年末休業(自三月廿九日至全月卅一日)

第十二條 夏季休業中ハ生徒ヲ數組ニ分テ交替ヲ以テ實習ニ從事セシムルモノトス

第四章 入學退學及資格

第十三條 入學期ハ每學年ノ始トス但時宜ニ依リ臨時入學ヲ許スコトアルヘシ

第十四條 別科生ハ臨時募集スルモノトス

第十五條 入學者ハ左ノ資格ヲ備フル者ニ限ル

一 品行端正体格強健ノモノ

二 年齡十四年以上ノモノ

三 尋常小學校卒業ノモノ若クハ之ト同等以上ノ學力ヲ有スルモノ

四 耕地ヲ所有シ又ハ農業ニ従事スルモノ、子弟

五 入學中家事ニ係累ナキモノ

第十六條 入學志願者ノ數定員ニ超過スル場合ニ於テハ年長者ヨリ順次採用スル

モノトス

第十七條 入學志願者ハ左ノ書式ニ依リ願書並ニ履歷書ヲ差出スヘシ

書式(零ス)

第十八條 入學ノ許可ヲ得タルモノハ左ノ書式ニ依リ保證書ヲ差出スヘシ

書式(零ス)

第十九條 保證人ハ丁年以上ノ男子ニシテ一家計ヲ立テ學校所在地ニ居住スルモノトス

但本校ニ於テ保證人ノ不適當ナリト認ムルトキハ之ヲ変更セシムルコトアルヘシ

第二十條 事故アリテ中途退學セントスルモノハ保證人連署ノ上願出ツヘシ

第二十一條 無斷欠席一ヶ月以上ニ涉ルモノハ本校生徒ノ名簿ヲ除ク

第二十二條 校則ヲ犯シ命令ニ背キ若クハ生徒タルノ本分ヲ守ラサル者ハ其情狀ニヨリ左項ニ照シ處罰スヘシ

一 誣責 二 停學 三 放校

第五章 試驗

第二十三條 試驗ハ每學期ノ終リニ於テ其學期中履修セシ科目ニ就キ之ヲ行フ

第二十四條 試驗評點數ハ各科目一百點ヲ以テ滿點トシ平均六十點以上ヲ及第點トス

第二十七條 實習ハ平素執業ノ巧拙成績ノ良否等ヲ審別シテ評點ヲ付ス

第二十六條 凡ソ試驗ニ欠席スルモノハ之ニ零點ヲ付ス

但情狀ニ依リ校長敘諭ノ見込ヲ以テ更ニ試驗スルコトアルヘシ

第二十七條 每學年ノ成績ハ其學期ノ評點數ヲ合算シ之ヲ二分シテ定ムル者トス

第二十八條 第一學年試驗ニ及第シタル者ニハ左式ノ修業書ヲ授與スルモイトス

書式(零ス)

第二十九條 第二學年試驗ヲ及第シタルモノニハ左式ノ卒業證書ヲ授與スルモイトス

書式(零ス)

第三十條 別科ヲ卒業シタルモノニハ左式ノ修業證書ヲ授與スルモノトス

書式(零ス)

附則

第三十一條 本規則實施ニ關スル細則ハ學校長ニ於テ之ヲ定メ知事ノ認可ヲ請フ

入シ

第三十二條 本規則ハ明治廿九年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

○製茶營業者届出ノ件 明治十九年十二月二日縣令甲第四十二號

製茶營業者ニシテ紅茶烏籠ノ茶ヲ製スル者ハ自今製造方法書相添縣廳へ届出認可ヲ請フヘシ

○茶畑改良試驗場位置及試驗法 明治廿七年八月廿五日告示第百十六號

號

茶畑改良試驗場位置及試驗法左ノ如シ

試驗場位置 茶畑反別 試驗法

東茨地郡石塚村大字石塚 六畝拾五步 壹付法 老衰シタル茶樹ヲ薙取新芽ヲ發

全郡常磐村大字常磐 壹反二畝七步 茶樹ヲ薙込ミ其芽ヲ整一ニシテ

前法 茶樹ノ增加セシムルニアリ以下

西茨城郡笠間町大字笠間 五畝二十二步 臺付法
 那珂郡大宮町大字大宮 五畝拾二步 臺付法 剪枝法
 同郡瓜連村大字中里 三畝十六步 臺付法 剪枝法
 同郡額田村大字額田北郷 壹反四步 臺付法
 久慈郡黒澤村大字上郷 五畝二十八步 肥培法
 多賀郡河原字町大字河原字六畝二十七步 臺付法
 鹿嶋郡鹿嶋町大字宮中 五畝六步 臺付法
 行方郡麻生町大字麻生 五畝步 剪枝法
 新治郡九重村大字上ノ室 五畝步 臺付法
 全郡石岡町大字石岡 一反步 臺付法
 筑波郡作岡村大字寺貝 壹付法 剪枝法
 全郡板橋村大字板橋 一反三畝十四步 臺付法
 眞壁郡付田村大字吉間 七畝十六步 臺付法

土質ニ適當ナル肥培ヲ爲シ以テ収量ノ増加ヲ圖ルニアリ

信太郡舟嶋村大字竹來 五畝步 臺付法
 全郡牛久村大字牛久 一反步 臺付法 剪枝法
 結城郡中結城村大字菅谷 六畝十二步 臺付法
 岡田郡大形村大字菅葉 八畝十八步 臺付法
 豐田郡西豐田村大字若 八畝步 臺付法 剪枝法
 西葛飾郡櫻井村大字久能 一反步 臺付法
 後嶋郡岩井村大字邊田 六畝十九步 臺付法
 全郡幸嶋村大字諸川 六畝十三步 臺付法
 全郡境町大字境 五畝步 臺付法
 全郡沓掛村大字沓掛 五畝步 臺付法
 北相馬郡大井澤村大字立澤一反步 臺付法
 全郡菅生村大字菅生 六畝二十六步 臺付法

○蠶糸業取締規則 明治二十五年二月十二日縣令甲第一號

明治十九年一月甲第七号蠶糸業組合規則左ノ通改正ス

但組合規約及蠶糸検査法ハ本廳へ届出認可ヲ受クヘシ

第一條 蠶糸業ニ従事スルモノハ郡市ノ區畫ニヨリ組合ヲ設置シ之ニ加盟スヘシ
若シ一郡内ニ於テ分割ノ必要アルトキハ三區畫以内ニ分割設置スルコトヲ得

(明治二十九年五月十三日縣令第二十四號改正)

但自用ノミニ供スルモノハ此限ニアラス

第二條 組合ノ名稱ハ茨城縣何郡市又ハ何郡何町村外何ヶ町村蠶糸業組合ト稱ス

(全上)

第三條 組合員ハ左ノ各項ヲ遵守スヘシ

第一項 繭ハ春夏秋ノ種類又ハ太陽殺蒸燥殺等混合シタルモノヲ賣買セサル

第二項 製糸ニ最モ良好ナル種類ヲ育養スル

第三項 繭ノ貯藏法ヲ完全ナラシムル

第四項 繭卵ノ検査法ヲ設ケ蠶病ヲ豫防スル

但第四條ニ該當スルモノハ此限ニアラス (明治二十六年四月八日縣令)

第五號追加)

第五項 繭及生糸荷造ノ上ハ其組合ノ名稱及製造者若クハ取扱人ノ姓名ヲ記入
シタル標章ヲ付シ賣買スル

第六項 一コリハ勿論一認若クハ一把中其否混合ノモノヲ販賣セサル

但等級ヲ區分シテ一コリトナシタルモノハ此限ニアラス

第七項 生糸ノ製造及結束ニ不正ノ重量ヲ付シ賣買セサル

第八項 繰取アル揚棒ヲ用ヒ尺度ヲ一様ナラシムル

第九項 生糸ノ結束及紐ノ量目ヲ一様ナラシムル

第十項 生糸検査法ヲ設ケ其精粗ヲ監別シ及製造上ノ弊害ヲ矯正スル

第十一項 蠶卵原種ノ掃殻ハ春夏秋ヲ問ハス掃立后一ケ年間保存スル

第十二項 提造嶋田折返造等ノ生糸ヲ揚返サスシテ其儘改造賣買セサル

第四條 製糸用ニ供スル蠶種ハ縣ノ内外ヲ問ハス當廳ノ検査ヲ受検査證ヲ押捺シ

タルモノニ非ラサレハ賣買スルヲ得ス (明治二十六年四月八日縣令甲第五號改正)

但夏期及秋期ニ飼育スルモノハ此限リニアラス

第五條 各組合ニハ役員ヲ置キ組合リノ事務ヲ擔任セシムヘシ

第六條 組合役員ハ必ス其組合ノ証票ヲ携帶スヘシ

但証票ニハ當廳ノ檢印ヲ受クヘシ

第七條 組合役員ハ時々組合ノ實況ヲ檢査スヘシ

第八條 縣下便宜ノ地ニ取締所ヲ置キ各組合ヲ統轄シ組合規約ノ實施ヲ監督スヘシ

第九條 各組合役員ハ其組合員ノ互撰ニヨリ取締所役員ハ組合役員會ニ於テ之ヲ撰舉スヘシ

第十條 組合及取締所ニ關スル費用收支ハ各組合集議ヲ以テ之ヲ定ムヘシ

第十一條 右各條ノ外組合ニ於テ必要トナス事項ハ適宜ニ其規約ヲ設クル事ヲ得

第十二條 本則第一條第三條中第五項第七項第十一項第四條第六條ニ違背シタルモノハ一日以上十日以下ノ拘留ニ處シ又ハ五錢以上一圓九拾五錢以下ノ科料ニ處ス

○蠶糸業取締規則ニ關スル訓令 明治二十五年一月二十三日訓令第五號 (郡)

管下蠶糸業ハ近年頗ル増進シ管内物産中重要ノ地位ヲ占メ其産額年一年ニ増如シ猶改良上取締ノ必要ヲ來シ今般蠶糸業取締規則改正發布候ニ付テハ此際右規則ノ主旨營業者ハ貫徹候様取計且其所屬内ニ設置スル蠶糸組合ノ規約實施ヲ監督スヘシ

○製糸用蠶糸檢査施行手續 明治二十六年六月三十日縣令第十八號

明治二十五年一月縣令甲第一號蠶糸業取締規則第四條製糸用蠶糸業檢査施行手續左ノ通相定ム

第十條 製糸用蠶種ノ檢査ハ其年九月十一日ヨリ十二月二十日迄左ノ地ニ檢査所

ヲ置キ施行ス

但時宜ニ依リ其他ノ町村ニ於テ出張検査ヲナシ又ハ検査期限ヲ伸縮スルヲ
アルヘシ (明治二十六年十月縣令第三十號改正)

一水戸市縣廳構内

一眞壁郡下館町

一新治郡土浦町 (明治廿八年八月廿八日縣令第廿八號改正)

一河内郡龍ヶ崎町

第二條 蠶種病毒ノ歩合ハ百分ノ八以下ノモノニ検査證印ヲ押捺シ其以上ニ及ブ
モノニハ廢棄印ヲ押捺スルモノトス (同上)

第三條 検査證印ヲ定ムル左ノ如シ 証印ハ明治二十八年八月二十八日縣令第三十
八號及全二十九年九月七日縣令第三十六號ヲ以テ改正

雛形(略ス)

第四條 蠶種製造人ハ其年七月三十一日迄ニ其製造枚數ヲ縣廳ニ届出スルシ

第五條 検査所ニハ「茨城縣製糸用蠶種検査所」ト記シタル標札ヲ掲クルモノトス
○蠶種検査規則施行手續 明治二十五年六月十六日縣令甲第三十六號

明治十九年九月本縣令甲第十八號蠶種検査規則施行手續左ノ通改正ス

蠶種検査規則施行手續

第一條 蠶種検査規則第一條ニ據リ下付スヘキ鑑札ハ製造販賣ノ二種ニ區別スル
モノトス

第二條 販賣鑑札ハ販賣ノ爲メ外出スルトキ携帯スヘシ

第三條 新ニ蠶種ヲ製造シ又ハ販賣ヲ爲サントスルモノハ毎年十一月一日ヨリ翌
年四月三十日迄ニ鑑札下付ヲ出願スヘシ

第四條 製造者ハ其飼育ニ供スル原種ノ製産地並ニ人名ヲ願書ニ記入シ且蠶系業
組長ノ證明書ヲ添付ス

第五條 蠶種製造及販賣者ニシテ廢業又ハ他ノ管轄地ニ寄留轉籍シタルキハ直ニ
鑑札ヲ返納スヘシ (明治二十六年一月卅一日縣令甲第三號第五條以下改正)

第六條 蠶種製造者ニシテ休業又ハ其他ノ事故ニ依リ成規ノ検査ヲ經タル他人ノ原種ヲ以テ蠶種ノ製造ヲサントスルモノハ原種製造人ノ住所氏名ヲ記シ蠶絲業組長ノ証明書ヲ添ヘ其年三月三十日限り届出ヘシ

第七條 蠶種製造及販賣鑑札ヲ紛失又ハ毀損シタルホハ速ニ縣廳ヘ届出其鑑札書換チ出願スヘシ

第八條 検査ヲ受クヘキ蠶種ハ毎年九月十日ヨリ全月二十日迄ニ其員數目録ヲ添ヘ便宜ノ検査所ニ差出スヘシ

第九條 蠶種検査所ノ位置ハ左ノ三ヶ所トス

水戸市大字上市 縣廳構内

眞壁郡下館町 妙西寺構内 (明治二十九年九月二十八日縣令第四十四號改正)

新治郡土浦町 新治郡役所構内

第十條 成規ノ検査ヲ經タル蠶種ニハ検査證印ヲ付スルコト左ノ如ク

一 原種検査證印 圓形徑一寸五分文字(茨城縣原種検査證)

一 廢棄證印 長方形文字(廢棄證)

○蠶種検査所設置手續 (明治二十一年五月十四日縣令号外)

(眞壁郡、新治郡、多賀郡助川村)

今般本縣令甲第四十四號ヲ以テ毎年十月一日ヨリ全月三十日迄其郡役所役場構内ニ蠶種検査所ヲ相設ケ候ニ付テハ其手續左ノ通り相定ム

蠶種検査所設置手續

第一條 蠶種検査ハ最モ光線ヲ要スル者ナレハ構内適當ノ室ヲ以テ之ニ充ツヘシ

第二條 検査員ハ壹ヶ所壹名ヲ縣廳ヨリ派出セシムルモノトス

第三條 検査助手雇入等ハ検査員ノ協議ニ應スヘシ

第四條 検査員及助手ノ勸怠簿ヲ製シ検査所閉鎖ニ際シ直ニ縣廳ヘ送達スヘシ

第五條 検査上必要ナル器械及經費ハ總テ縣廳ヨリ之ヲ下付ス

○原種検査期限 (明治二十六年九月二十五日告示第三百三十六號)

明治二十五年 川本縣令甲第三十六號ニ據リ施行ス可キ原種ノ検査ハ十月一日

ヨリ十一月卅日迄ト定ム

○蚕種配付請求証明書ノ件 (明治二十九年五月二十八日縣令第二十八號)

明治二十九年五月農商務省令第五號ニ依リ蚕種配付ヲ請求スル爲メ其資格ノ證明ヲ出願スルモノハ其所屬市町村長ノ證明ヲ得テ出願スヘシ

○蚕種配付請求者ニ關スル件 明治二十九年五月二十八日 (郡市町村) 訓令甲第七號

明治二十九年五月二十八日茨城縣令第二十八號ニ依リ蚕種配付請求者ニシテ其資格ノ證明ヲ請フ者アルキハ其所屬市町村長ハ之ヲ調査シ證明書ヲ交付スヘシ
○製絲巡回教師教授方法 明治二十五年四月二十二日縣令甲第卅一號
製絲巡回教師教授ノ方法左ノ通り相定ム

製絲巡回教師教授方法

第一條 製絲業ノ改良發達ヲ圖ランカ爲メ製絲巡回教師ヲ置キ實地ノ教授及講話

ヲナサシムルモノトス

第二條 製絲業教授法ノ要旨ハ左ノ科目ニ依ルモノトス

- 一 管理法
- 一 繭取扱法
- 一 繰糸法
- 一 整糸法
- 一 生糸検査法

第三條 製絲業實地ノ教授ハ各郡市種業組合ニ於テ其日數各二週間以内トス
但時宜ニヨリ伸縮スルコトアルヘシ

第四條 製絲巡回教師實地ノ教授ヲ受ケント欲スルモノハ其郡市内當業者協議ノ上適宜區域ヲ定メ製絲業組長及種業組合取締所々長連署シ所管郡市役所ヲ經テ其年五月二十五日迄ニ出願スヘシ

第五條 願書ニ左ノ數項ヲ添載ス可シ

- 一 教授ヲ受クヘキ日數
- 一 全上工女ノ數
- 一 區域内ノ町村及其廣狹
- 一 生糸出來高ノ概數
- 一 始終業時日ノ豫定

第六條 種業組合ノ出願ニ由リ製絲工女ノ試験及生糸ノ検査ヲ行フコトアルヘシ

第七條 講話ハ郡市町村人民ノ開設スル集談會ニ臨ミ又ハ篤志者ヲ集メ第二條ノ

教科ヲ斟酌シ演述スルモノトス

第八條 集談會ニ出張ヲ乞フキハ其時日場所等ヲ記シ少クモ二十日前ニ出願スヘシ

○製糸業教授ノ方法 明治二十六年三月二十二日訓令第三十四號郡市本年度ニ於ル製糸業教授ノ方法ハ左ノ要項ニ據リ製糸巡回教師ヲシテ教授セメ候條當業者ヲ誘導シテ宜シク之ヲカ實施ヲ期スヘシ

製糸業教授ノ方法

第一製糸家ノ團結ヲ誘導スル事

縣下製造生糸ノ眞價ヲ得ル能ハサル所以ノ者ハ創業日尙ホ淺ク製糸家ハ概テ個々孤立以テ業ヲ營ムヨリ荷數揃ハス糸質不齊ナルニ依ル故ニ地方ノ狀況ニ應シ自然ニ部落ニ據リ適宜地區ヲ限リ而テ共同團結シ以テ共同相場及ヒ合同販賣等ノ設立ヲ急務トス

第二製糸場設立ニ關スル事

客年來糸價ノ騰貴ニ乘シ縣内各地製糸場ノ設立ヲ企畫スルモノ甚ク多シ是時運ノ然ラシムル所ナルヘシト雖モ今日ノ糸價ヲ標準トシ輕躁業ヲ創メ市價一朝ノ波瀾ニ蹉跌失敗スルカ如キハ即チ製糸家カ今日ヨリ豫メ注意スヘキノ要務ナルヘシ是以テ製糸器械ヲ創置セント欲スルモノハ宜シク前後數年ノ糸價ヲ查計シテ其目安ヲ立テ原繭販路等ヲ調査シテ徐ロニ其經濟ヲ料理シ又坐繰ノ如キハ可成一部落ヲ集團シテ其組合規約ヲ制定シ荷數ヲ多クシ一定ノ生糸ハ製出スルヲ主要トス

第三共同殺虫所設立ノ事

客年水戸市ニ於テ開設セシ茨城縣物産共進會ニ於テ出品ノ繭ヲ審査セシニ其三分ノ一ハ微繭ナリト云フ微繭ノ生糸ノ色澤ヲ失シ其糸質ヲ害スルヤ大ナリトス之ヲ豫防スルハ養蠶家ト製糸家ノ務ナレトモ養蠶家ハ其繭ヲ賣却スレハ與リテ知ラサルモノ、如シ製糸家ハ完全ナル殺虫所ナキカ爲メニ知ラス識ラズ微繭ヲ多カラシムルハ今日ノ現況ナリ是レ共同殺虫所ノ設置ヲ要スル所以

ナリ

第四工女ノ使役法及其賃金ヲ一定スル事

製絲ノ改良ハ工女ノ技術ト大ナル關係ヲ有ス繭質用水ハ如何ニ善良ニシテ其器械ハ如何ニ完善ナルモ工女ノ技術ニシテ未熟拙劣ナルトキハ決シテ良絲ヲ得ルコト難シ而シテ善良ナル工女ヲ得ント欲セハ平素ニ於テ之レカ使役ノ方法ヲ一定シテ其勤怠巧拙ヲ觀察シ甲乙ノ製絲家ヲ通シテ一定ノ賃金ヲ規約シ以テ之レカ取締ト獎勵トヲ施行セサル可ラサルナリ

第五製糸法ニ關スル事

製絲ハ織物ニ供スルノ外他ナキモノナリ然ルニ其絲ノ細太不均類節多ク且光澤不良ノモノニテハ到底上等ノ織物ヲ製出スル能ハサルナリ且夫レ輸出生絲ノ需用ハ佛國向アリ米國向アリ故ニ製糸ヲナサント欲セハ其需用ノ如何ヲ窺知シテ目的ヲ定メ強メテ織度ノ均一ナルモノヲ製出セシメサル可ラサルモノナリ

第六生糸裝束ノ事

縣下ノ生糸多クハ各自個々ノ仲買人ニ依リテ販賣スルカ故ニ其束裝ノ亂雜不齊ナル或ハ捻造アリ或ハ折返造アリ或ハ鐵砲造アリテ千狀萬態實ニ名狀スヘカラサルモノアリ蓋シ束裝及捻糸ノ巧拙ハ糸價ニ甚シキ關係ヲ有スルモノナリ是レ本縣生糸ノ聲價ヲ市場ニ得ヌ殊ニ縣名ヲ以テスル能ハスシテ仲買人ニ頼リ或ハ他府縣生糸ニ混同販賣スルノ己ヲ得サル所以ナリ

第七撰繭ノ事

善良ナル生糸ヲ得ゾト欲セハ繭ノ撰別法ヲ詳知セサル可ラス然ルニ縣下生糸家之ニ注意スルモノ甚ク少シ故ニ第一光澤第二形狀第三縮離第四緊緩第五懸繭等撰別法ノ要點ヲ説示ス

第八製糸ノ商況ヲ詳ニスル事

價格ノ變動窮ナク其波瀾起伏ノ甚クシキモノハ生糸ニ若クモノナシ故ニ製糸家ハ横濱其他生糸商況ノ盛ナル地方ニ交通ヲ求メテ能ク其商況ヲ察シ又各地

便宜ノ地ニ相場揭示所ヲ設ケ爾及生糸ノ相場ヲ瞬間ニ當業者ニ告知セシムル
ヲ便ナリトス

○種牡牛馬取締規則 明治二十七年二月二十二日縣令第十四號

明治十九年本縣甲第四十八号布達種牡牛馬取締規則左ノ通改正ス

種牡牛馬取締規則

第一條 種牡牛馬ハ本則ニ依リ検査ヲ受ケ免狀ヲ有スルモノニ限ルヘシ

第二條 種牡牛馬免狀ヲ得ントスル者ハ第一號書式ニ據リ最寄獸醫ノ証明ヲ受ケ
郡市役所ヲ經由出願ス可シ

第三條 種牡牛馬ハ左ノ各項ニ適合スルモノニ限ル

第一牛ハ滿二才以上十才以下ニシテ丈四尺二寸以上ノモノ

但洋種ハ十才以上ニ至ルモ許可スルコトアルヘシ

第二馬ハ滿三才以上滿十六才以下ニシテ丈四尺五寸以上ノモノ

但洋種ハ滿六才以上ニ至ルモ許可スルコトアルヘシ

第三遺傳病及惡癖ナク強壯ニシテ骨格善良ナルモノ

第四條 種牡牛馬ハ毎年検査ヲ受クヘシ検査ノ場所及期日ハ告示ヲ以テ之ヲ定ム

第五條 前條検査ノ外特ニ必要アル場合ハ臨時検査ヲ行フコトアルヘシ

第六條 検査ノ上第三條ノ資格ヲ失フモノト認メタルキハ免狀ヲ返納セシムヘシ

第七條 種牡牛馬ヲ交尾セシムル際ハ必ス免狀ヲ携帯スヘシ

第八條 種牡牛馬ハ滿二十ヶ月以下ノ牝牛滿三才以下ノ牝馬及遺傳病アル牝牛馬
ニ交尾セシム可ラス

第九條 種牡牛馬所有者ハ其交尾セシメタル牝牛馬ノ頭數ヲ第二号書式ニ據リ牛

ハ翌年一月迄馬ハ其年八月十日迄ニ郡市役所ヲ經由届出ヘシ

第十條 種牡牛馬年齢超過疾病斃死其他事故ニヨリ種用ヲ廢スルキハ郡市役所ヲ
經由免狀ヲ返納ス可シ

第十一條 種牡牛馬免狀ヲ毀損亡失シ又ハ免狀尙ニ異動ヲ生シタルキハ其旨ヲ記
シ郡市役所ヲ經由免狀ノ書換ヲ届出ヘシ

第十二條 種牡牛馬ヲ賣買讓與シタルキハ双方連署ヲ以テ郡市役所ヲ經由免狀ノ
畫換ヲ願出ヘシ其管外ニ係ルモノハ免狀ヲ返納スルモノトス

第十三條 本則第一條及第四條第一項ニ違犯シタル者ハ一圓以上一圓九拾五錢以
下ノ科料ニ處ス

書式第一號

種牡牛(馬)免許願

族籍 姓 名

一牡牛(馬) 產地及生年月 種類及血統 年齡 毛色 丈

右種牡牛(馬)ニ致度候間御検査ノ上免狀御下付相成度此段相願候也

年月日 右 姓 名 印

右遺傳病及惡癖ナシ年齢相違無之候也

郡市町村大字

獸醫 姓 名 印

茨城縣知事宛

第二號

交尾頭數届 明治 年分第 號免狀種 牡牛(馬)

牝牛馬種類 年齢 毛色 郡市 町村 大字 牝牛馬持主姓名

内國種外國種又ハ雜種

合計 内國種 頭 外國種 頭 雜種 頭

右及御届候也

郡市町村大字

明治 年月日 姓 名 印

茨城縣知事宛

○獸醫組合準則 (明治二十年六月一日縣令甲第四十二號)

獸醫開業者ハ左ノ獸醫組合準則ニ據リ組合ヲ設ケ規約ヲ結ヒ縣廳へ届出ヘシ

獸醫組合準則

第一條 本組合ハ左ノ目的ヲ以テ組織スルモノナリ

- 一 醫風ヲ改良スルヲ
- 一 醫術ヲ研究スルヲ

- 一 地方病原ヲ探究スルヲ
- 一 家畜傳染病豫防ニ關スルヲ

一家畜健全保護ニ關スルヲ 一前項ノ外組合ニ於テ要必ト認ムル事項

第二條 組合ノ名稱ハ茨城縣何々郡獸醫組合ト稱スヘシ

第三條 組合區域ヲ定ムル事左ノ如シ

第一區 久慈郡 多賀郡

第二區 東茨城郡 邇珂郡 西茨城郡 鹿嶋郡 行方郡

第三區 新治郡 北相馬郡 筑波郡 信太郡 河内郡

第四區 眞壁郡 結城郡 岡田郡 豊田郡 猿嶋郡

西葛飾郡

第四條 各組合中ヨリ委員ヲ撰定シ組中ノ事務ヲ擔任セシムヘシ

第五條 各組合ニ於テハ第一條實施ノ方法ヲ協議スル爲メ毎年一回組合員集會ス

ルモノトス

第六條 縣下水戸上市ニ獸醫組合中央部ヲ設ケ各組合ノ規則ヲ實施シ監査シ口氣脈ヲ繼通スヘシ

第七條 獸醫組合中央部ノ役員ハ各組合委員中ヨリ互撰スヘシ

但シ時宜ニヨリ委員外ノモノト雖モ之ヲ撰舉スルヲ得

第八條 獸醫組合中央部ニ於テハ第六條實施ノ方法ヲ協議スルタメ毎年一回各組合員集會スルモノトス

第九條 各組合員中央部規約ノ改正役員ノ進退アルキハ縣廳ヘ届出ヘシ

第十條 各組合及中央部集會期日ハ豫メ縣廳ヘ届出ヘシ

第十一條 第一條ノ事項ニ就キ一般ノ利害得失ニ關スル意見アルキハ各組合若シハ中央部ノ決議ヲ以テ縣廳ヘ具申スルコトヲ得

但縣廳ヨリ諮問アルキハ亦答申スルモノトス

第十二條 各組合ニ關スル費用ハ其組合員ニ於テ中央部ニ關スル費用ハ各組合ニ

於テ協同支辨スルモノヲス

○獸醫仮免狀下付出願細則 明治二十三年九月十九日縣令甲第卅六號

獸醫仮免狀下付出願細則左ノ通相定ム

明治十九年甲第六十三號布達ハ廢止ス

獸醫仮免狀下付出願細則

第一條 獸醫仮免狀下付ヲ出願スル者ハ獸醫欠乏ノ地ニ限ルヘシ

第二條 獸醫欠乏ノ地トハ左ノ事實アル場所トス

開業獸醫居住地ヨリ貳里以上ノケ所

開業獸醫居住地ヨリ貳里以内ノ地山岳湖沼川等介在往復不便ノケ所

第三條 獸醫仮免狀下付ノ出願者アルキハ縣廳ニ於テ獸醫學及實地試驗ヲ行フヘシ

試驗法ハ實地及筆記ノ二様トス但時宜ニ依リ口述ヲ以テ實地ニ代フ

第四條 獸醫仮免狀下付願書ハ左ノ書式ニ據リ正副貳通郡市役所ヲ經テ差出ヘシ

書式 (用紙美濃)

獸醫仮免狀御下附願

住所(寄留ナレハ本籍ヲ併記スヘン) 氏 名

氏 名

生年月日

私儀何國何郡(市)何町(村)大字何々何番地ニ於テ獸醫開業仕度候間仮免狀御下付被成下度別紙履歷書相添ヘ此段奉願候也

年月日 右 氏 名 印

右町村長 氏 名 印

農商務大臣宛

履歷書

住所 氏 名 印

生年月日

一某年月ヨリ某年月ニ至ル幾年月間某地學校又ハ何某ニ就キ漢洋法獸醫學修業
一何々

以上

年月日

右

姓

名

○獸醫仮免狀願取調ノ件

明治二十三年九月十九日訓令第九十

四號(郡市)

獸醫仮免狀ノ下付ヲ願出ル者アルキハ左ノ事項ヲ取調具狀スヘシ

但明治二十年縣令丙第十一號ハ廢止ス

取調事項

一營業區域(區域町村名ヲ列記スヘシ)

一同廣袤(東西及南北ノ里程ヲ記スヘシ)及牛馬頭數

一開業獸醫居住地ヨリ本願人ノ營業區域境界迄ノ最近距離及其嶮夷

○獸醫開業手續 明治二十一年十一月一日縣令甲第八十八號

管内ニ於テ獸醫ヲ開業スル者ハ左ノ手續ヲ爲スヘシ

但既ニ開業ノ者モ亦本令ニ據ルヘシ

一獸醫ヲ開業スル者ハ開業ノ場所ヲ記シタル届書ニ開業免許狀寫ヲ添ヘ所轄
郡役所ヲ經テ縣廳ヘ届出ツヘシ

一管外ヨリ管内若シハ甲郡町村ヨリ乙郡町村ヘ出張所ヲ設ケ又ハ廢止スルキ

ハ其郡町村番地ヲ記シ所轄郡役所ヲ經テ縣廳ヘ届出ツヘシ

○蹄鉄工仮免狀下付出願細則 明治二十三年八月二十五日縣令甲卅一號

蹄鉄工仮免狀下付出願細則ヲ定メ本年十月一日ヨリ施行ス

蹄鉄工仮免狀下付出願細則

第一條蹄鉄工ノ仮免狀下付ヲ出願スル者ハ蹄鉄工欠乏ノ地ニ限ルヘシ

第二條蹄鉄工欠乏ノ地トハ左ノ事實アル場所トス

開業蹄鉄工居住地ヨリ二里以上ノケ所

開業蹄鉄工居住地ヨリ二里以内ノ地山脈湖沼等介在シテ往復不便ノケ所

第三條 蹄鐵工仮免狀下付願書ハ左ノ書式ニ據リ正副二通郡市役役ヲ經テ差出ス

書式 (用紙美濃紙)

蹄鐵工免狀御下付願

住所族籍

氏

名

生年月日

私儀今般常陸國何郡(市)何町(村)大字何々何番地ニ於テ蹄鐵工開業仕度候間
仮免狀御下付被成下度別紙履歷書相添此段奉願候也

年月日

右

氏

名印

右町村長

氏

名印

農商務大臣宛

履歷書

住所族籍

氏

名

生年月日

- 一 某年月ヨリ某年月ニ至ル何年月間某地何某(或ハ何學校)ニ從ヒ何學修業
- 一 某年月ヨリ某年月ニ至ル何年月間某地何某(或ハ何學校)ニ從ヒ蹄鐵學或ハ漢洋法獸醫學修業
- 一 何々 以上

年月日

右

何

某印

○蹄鐵工仮免狀願取調ノ件 明治廿三年八月廿三日訓令第八十號

蹄鐵工仮免狀下付出願者アルトキハ左ノ事項ヲ取調具狀スヘシ

取調事項

一 項營業區域(區域内各町村ヲ列記スヘシ)廣袤(東西南北ノ里程ヲ記スヘシ)馬匹頭數

二 項開業蹄鐵工居住地ヨリ本願人ノ營業區域境界迄ノ最近距離

○蹄鐵工開業届出ノ件 明治廿三年十一月十日縣令甲第四十八號

管内ニ於テ蹄鉄工ヲ開業スル者ハ開業ノ場所テ記シタル届書ニ免狀ノ寫ヲ添ヘ所轄郡役所ヲ經テ縣廳ニ届出ツヘシ

○銀行會社設立調査ノ件 明治二十六年六月廿六日訓令乙第三百一號
(郡市)

銀行又ハ會社設立ノ認可申請書ヲ受理シタルトキハ左ノ各項ニ該當ノ點ナキヤ否ヤヲ調査シ意見ヲ具シ其第一項ニ付テハ既設株式會社ヨリ認可ヲ申請スル定款ニ於テモ均シク調査副申スヘシ

但第一項ニ該當ノ廉アリト認ムルキハ一應其旨諭示スヘシ

- 一 法律命令ニ違反スル事
- 二 公安公益風俗ヲ害スル虞アル事
- 三 或ル階級ノ人民ニ於テ其生計及營業上多大ノ害ヲ被ムルノ虞アル事

四 就業者ノ健康安全ヲ害スルノ虞アル事

五 發起人各自信用ノ程度カ企業ニ適セサル事

六 企業カ實際ノ需用及地方ノ狀況ニ應セサル等ニシテ良好ノ結果ヲ得ヘキ望ナキ事

七 資本ノ全額ヲ募集シ得ヘキ見込ナキ事

八 資本金額ノ僅少ナル爲メ企業ノ目的ヲ達シ及法律命令ヲ遵行シ得サルノ虞アル事

○私立銀行營業報告書ノ件 明治二十七年七月七日訓令乙第三百一號
(郡市)

私立銀行營業報告書ハ銀行條例施行細則付屬雛形ニ準據スヘキハ勿論ニ候處先般進達ニ係ル私立銀行營業報告書ハ其調製法粗漏誤謬ノ廉不勘之カ爲メ非常ノ手數ヲ要スルノミテラス法律上公告ヲ要スル貸借對照表財産目錄等ハ大ニ銀行ノ信用ニ關スルモノニ有之萬一違法ノ嫌等有之ニ於テハ不都合候條此際報告期

ニ當リ候ニ付當業者ノ注意ヲ促カシ前顛ノ不都合無之様論達スヘシ

○銀行會社 設置書類ノ件 明治廿六年六月廿六日告示第百五十一號
銀行又ハ會社ヲ設立セントスルモノ商法又ハ銀行條例ニ據リ本廳ヲ經由シ主務
省ヘ差出スヘキ書類ハ總テ正副ニ通テ製シ所管郡市役所ヲ經テ差出スヘシ

銀行會社 登記届ノ件 明治二十七年七月十日訓令乙第三百六號郡市
銀行事業ヲ營ム會社ニシテ登記ヲ受ケタルトキハ其事項及ヒ年月日ヲ當廳ヲ經
由シ大藏省ヘ届出サシムヘシ

但既ニ登記ヲ受ケタルモノハ此際其登記事項及年月日ヲ届出サシムヘシ

○銀行會社 資本増減申請書ノ件 明治二十七年六月十三日訓令乙第
二百六十四號(郡市)

自今銀行事業ヲ營ム會社ヨリ差出ス資本増減ノ認可申請書ニハ資本増減ノ理由
及其拂込排戻ノ期日方法等總會ノ決議案ヲ具シタル参考書ヲ添付セシムヘシ
但各人ハ申請書ニ増減ノ理由ヲ記載セシムヘシ

○私立銀行財産目錄等公告之件 明治二十九年一月廿八日

訓令乙第二十九號 (郡市)

私立銀行ノ財産目錄貸借對照表ノ義ハ銀行條例第四條ノ規定ニ依リ公告スヘキ
ハ勿論ノ處萬一右ノ手續ヲ爲サズ自然等閉ニ附スルニ於テハ不都合ニ候條此際
客年下半期ノ分ハ勿論向後ハ渾テ公告ヲ爲シタル新聞紙ヲ當廳ヲ經由シ大藏省
ヘ差出サシムヘシ

○船舶海員 水陸運輸帶氣等ノ營業會社ノ願ニ關スル件

明治二十七年十二月廿六日訓令乙第四四八號 (郡市)

左ニ記載スル事業ヲ營ム株式會社並ニ該會社發起人ヨリ商法及付屬ノ法律命令
ニ據リ主務省ニ提出スル諸文書ニシテ從來農商務大臣宛差出シタルモノハ自今
農商務遞信兩大臣宛差出サシムヘシ

一 船舶海員ニ關スル事業 一 水陸運輸事業 一 電氣事業

○商民事會社設立届出ノ件 明治二十七年七月廿五日縣令第卅二號

株式組織ニアラサル商事會社及民事會社ヲ設立シタルトキハ其受領及登記ノ寫ヲ添へ所管郡市役所ヲ經由シテ縣廳へ届出ツ可シ其會社ヲ解散シ若クハ定款ヲ變更シタルトキモ亦同シ

但從前設立シタル會社ハ此際届出ヘシ

○玄米取引相場報告

明治二十七年五月十一日訓令乙第二百四十號 〔水戸、新治、西葛飾、後嶋〕

其所屬左ノ地ニ於ケル玄米直取引相場ヲ本年四月ヨリ別紙様式ニ據リ毎月本縣内務部へ報告スヘシ但從來每半ヶ月ノ米價報告ハ自今廢止ス

水戸 土浦 古河

一様式

明治何年何月玄米壹石平均價

地名 上米 中米 下米

右報告候也

明治 年 月 日

何郡市役所

茨城縣内務部宛

○度量衡取締規則 明治二十五年十二月廿九日縣令甲第八十三號

明治二十四年法律第三號度量衡法第十一條ニ依リ度量衡器取締規則左ノ通り相定メ明治二十六年一月一日ヨリ施行ス

度量衡取締規則

- 第一條 度量衡器ノ製作場修覆場及販賣所ハ本縣吏員ヲシテ時々臨檢セシムヘシ
- 第二條 本縣吏員ハ必要ト認ムル場合ニ於テ營業ノ目的又ハ買授受証明ノ爲メニ使用スル度量衡器ノ臨檢ヲナスモノトス
- 第三條 警察署長又ハ分署長ハ其部内ニ於ケル度量衡器ノ取締ヲナシ時々巡查ヲシテ臨檢セシムヘシ 明治廿七年十二月縣令第五十一號改正
- 第四條 度量衡器ノ製作者修覆者及ヒ販賣者ハ左ノ事項ヲ遵守スヘシ
 - 一 設計書ト實地トノ差違ナキ様注意スヘシ
 - 二 製作及ヒ修覆ニ用ユル材料ハ不完全(例ハ木材ナレハ生木等製作後差狂ヲ

生スル恐レアルモノナルモノヲ使用スヘガラズ

三度量衡法第八條第三項ニ依リ桿秤ノ取締及ヒ鍾系ノ修理ヲナシタルハ前年四月ヨリ其年三月ニ至ル一ケ年間ノ個數ヲ毎年四月廿日迄ニ縣廳ヘ報告スヘシ 明治廿六年四月一日縣令第四号ヲ以テ追加

四製作者修覆者及販賣者ハ各自明細簿ヲ備ヘ置クヘシ但此帳簿ニハ製作者ハ製作額販賣額(販賣者某ヘ販賣シタル額。使用者ヘ販賣シタル額)並ニ賣上代價ヲ。修覆石ハ修履額並ニ修覆料ヲ販賣者ハ買入品ノ額 仕入先ノ宿所姓名總販賣額並ニ総代價ヲ記載スヘシ

五製作者修理者及販賣者ハ毎年七月及ヒ一月ノ兩度ニ前項前半季分ノ事項ヲ各自縣廳ヘ報告スヘシ

六製作及修理ニ用ユル原器ハ濕氣少ナク温度ノ劇変火災及塵埃ヲ避ヘキ場所ニ堅牢ナル臺ヲ据ヘ其上ニ平置シテ保管スヘシ

第五條 營業ノ目的又ハ販賣授受証明ノ爲メニ度量衡器ヲ使用スルモノハ左ノ事項ヲ遵守スヘシ

項ヲ遵守スヘシ

一 度量衡器ニ自然構造ノ異狀變形若クハ差狂ヲ生シタル掛念アルキハ速ニ之ヲ檢定ヲ受クヘシ

二 度量衡器ハ外物ノ粘附セサル様常ニ清潔ニ掃除スヘシ

第六條 本廳ニ於テ度量衡法施行規則第四十四條ニ依リ届出ヲ得タルキハ檢定ノ上差狂アルニ於テハ消印ヲ付シ市長村長若クハ所有者ヘ返付スヘシ (縣令第四號追加)

度量衡器臨檢手續 明治廿七年十二月十二日官第八十六號(警)

度量衡器臨檢手續左ノ通相定ム

度量衡器臨檢手續

第一條 警察署長警察分署長ハ其所轄内ニ於ケル度量衡器ノ取締ニ任シ毎年二回(四月十月)巡查ヲシテ營業ノ目的又ハ賣買授受証明ノ爲メニ使用スル者ニ就キ臨檢セシヘシ

但シ時宜ニ依リ臨時臨檢セシムルヲ得

第二條 臨檢ハ一定ノモノヲシテ擔任セシムヘシ

第三條 臨檢ヲ爲シタルキハ別記表式ニ依リ臨檢表ヲ調製シ所屬警察署長警察分署長ヲ經テ十日以内ニ警察部ヘ進達スヘシ

第四條 臨檢者ハ每器檢印(証印番號年號廳印府縣印)若シハ證書ノ有無及左ノ事項ヲ監査スヘシ

(5) 度器

一 兩端磨滅シテ全長ニ差狂ヲ生シ若クハ枉撓シタルモノナキヤ否

二 標尺ノ接續部ニ緩ミヲ生シテ全長ニ差狂ヲ生シタルモノナキヤ否

三 目盛全長ノ表記等磨滅シタルモノナキヤ否

(3) 量器

一 槽糖其他容量ヲ減スヘキモノ、附着シタルモノナキヤ否

二 内外缺損ノ個所アリ容量ヲ増減スルモノナキヤ否

三 斗概ノ有無及其缺損シタルモノナキヤ否

(2) 衡器

一 分銅ノ重量ニ差狂ヲ生シタルモノナキヤ否

二 桿ノ枉撓又ハ短縮シタルモノナキヤ否

三 目盛ノ磨滅シタルモノナキヤ否

四 指針ノ曲リタルモノナキヤ否

五 緒紐ノ結換又ハ長短アルモノナキヤ否

第五條 臨檢ノ際毀損磨滅其他不完全ノモノト認メタルトキハ該器ノ使用ヲ差止メ若シハ修理ヲ命スヘシ

但正否判定シ難キモノハ其種類及狀況ヲ記シ所屬警察署長又ハ分署長ニ申報シ署長分署長ハ警察部ノ指揮ヲ請フヘシ

第六條 臨檢ノ際ハ使用者ニ對シ度量衡取締規則第五條ノ規定ヲ諭示スヘシ

度量衡器臨檢表

何 警 察 (分) 署

度 量 衡 計

新器 舊器 新器 舊器 新器 舊器 新器 舊器

監 査 總 數

合格ト認メタルモノ

修理ヲ命シタルモノ

使用差止メタルモノ

刑事訴追ニ附シタル者

計

○一百噸以上ノ船舶買入レタルキ調査ノ件 明治二十五年八月十一日 縣令第五十二號

登簿噸數一百噸以上ノ内外國航船ヲ新造若シハ外國ヨリ買入レタルモノアルキハ海上運輸ニ係ル調査上必要ノ諸件ニ關シ海軍參謀部ニ於テ其船舶ニ臨檢シ調査ヲ遂ケラルヘキ等ニ付其旨豫メ心得ヘシ

但既ニ該調査ヲ了リタル船舶ト雖ヒ爾後其構造ヲ變更シタル等ノ場合ニ於

テハ更ニ臨檢調査アルヘシ

○西洋日本形船舶報告様式 明治廿六年一月廿一日縣令丙第三號 郡市登簿船免狀ヲ要セサル西洋形船舶及ヒ日本形船舶(五十石未満ハ除ク)ハ左ノ様式ニ倣ヒ毎年一月七月三十一日限リ毎半年分取纏メ報告スヘシ

但明治十四年郡甲第三拾號全十五年七月郡甲第八拾三號全二十一年當縣令丙第三拾號ハ廢止ス

一 号 様 式

登簿船免狀ニ要セサル西洋形船舶調 毎年六月十二月末現數

船 名 何々丸

定 業 場 何國何郡何市何町村又ハ何港

船 質 鉄又ハ木

槽 數 何本

索具ノ裝置 フリツク スクイ子ル カッター。スルーフ等

尺 度	長 曲 尺 何 寸	幅 同	深 同
製造地名	何國何郡何市何町村又ハ何造船所		
製造年月	何年何月		
總噸數	何噸々々		
登簿噸數	何噸々々		
公稱馬力	何馬力々々		
船主氏名	何ノ誰又ハ何會社若シハ管理人ノ氏名		
船主族籍地名	何國何郡何市何町村何番地		
(備考) 官廳所屬船モ本調ニ線入ルヘシ風帆船ハ馬力ノ項ニ斜線ヲ施スヘシ			
二號樣式			
種 別	日 本 形	船 舶 表	
五十石以上	別	船 數	每年六月十二月末現數
五十石		石 數	
百石未滿	全	計 全 何 艘	計 全 何 石

百石以上	全	計 全 何 艘	計 同 何 石
百五十石未滿	全	計 全 何 艘	計 同 何 石
百五十石以上	全	計 全 何 艘	計 同 何 石
二百石未滿	全	計 全 何 艘	計 同 何 石
二百石以上	同	計 同 何 艘	計 同 何 石
五百石未滿	同	計 同 何 艘	計 同 何 石
五百石以上	同	計 同 何 艘	計 同 何 石
千石未滿	同	計 同 何 艘	計 同 何 石
千石以上	同	計 同 何 艘	計 同 何 石
合	計	計 何 艘	計 何 石

(備考) 石數種別欄ハ石數ヲ異ニスル毎ニ一々區別記號スヘシ
三號樣式

發給船免狀ヲ要セサル西洋形船解撤
並ニ外國人ニ係ル賣買讓與數員表

每年一月ヨリ六月末ニ至ル
七月ヨリ十二月末ニ至ル

解撤ノ部

船名	總噸數	登簿噸數	公稱馬力	解撤年月	住所	船主氏名
々丸	何噸	何噸	何馬力	何年何月	何國何郡何市 何村何町番地	何ノ誰又ハ何 會社若クハ管 理人氏名
賣買ノ部						
船名	總噸數	登簿噸數	公稱馬力	賣買讓與年月	賣讓主氏名	買受讓受主氏名
何々丸	何噸	何噸	何馬力	何年何月	何ノ誰又ハ何 會社若クハ管 理人氏名	何ノ誰又ハ何 會社若クハ管 理人氏名

(備考) 官廳所屬船モ本表ニ組入ルヘシ風帆船ハ馬力ノ項ニ斜線ヲ施スヘシ
四號様式

日本形船五十石未
滿ヲ除ク新造解撤數員表

每年一月ヨリ六月末ニ至ル
七月ヨリ十二月末ニ至ル

新造ノ部

種別	噸數	馬力	何年何月	何ノ誰又ハ何 會社若クハ管 理人氏名
五十石以上 百石未滿	五十石	全	何年何月	何ノ誰又ハ何 會社若クハ管 理人氏名
百石以上 百五十石未滿	百石	全	何年何月	何ノ誰又ハ何 會社若クハ管 理人氏名
百五十石以上 二百石未滿	百五十石	全	何年何月	何ノ誰又ハ何 會社若クハ管 理人氏名
二百石以上 五百石未滿	二百石	全	何年何月	何ノ誰又ハ何 會社若クハ管 理人氏名
合計	何艘	何艘	何年何月	何ノ誰又ハ何 會社若クハ管 理人氏名
解撤ノ部	何艘	何艘	何年何月	何ノ誰又ハ何 會社若クハ管 理人氏名

五十石以上 百石未滿	五十石	計	全何艘	百二十六
百石以上 百五十石未滿	同百石	計	同何艘	
百五十石以上 二百石未滿	同百五十石	計	同何艘	
二百石以上 五百石未滿	同二百石	計	同何艘	
五百石以上 千石未滿	同五百石	計	同何艘	
千石以上	同千石	計	同何艘	
合		計	同何艘	

(備考) 石數種別ノ欄ハ石數ヲ異ニスル毎ニ一々區別記載スヘシ

○西洋形船船長運轉手等報告表式

明治二十二年五月二十五日縣令號外(沿河、海郡、町、村)

西洋形船々長運轉手機關手水火夫等ノ人員毎年十二月三十一日現在ヲ以テ左ノ表式ニ據リ調製シ町村役場ハ翌年一月二十五日迄ニ郡役所へ郡役所ハ二月五日迄ニ當廳へ報告スヘシ

但明治十八年四月本縣丙第三號全二十一年四月九日本縣令號外ハ廢止ス

報告書式

明治 年十二月三十一日調

船名	船主族 免狀種 類番號	船長以下職務	族籍氏名	一ヶ月 雇入 給料	水夫以下職名	人員
甲乙種船長	若シハ形 船々長免狀號	船長	何府縣士 族平民 誰	何圓	年月日	水夫長 何人
甲乙種一等 運轉手免狀號		運轉手	同	同	同	舵夫 同

何九 何府縣 甲乙種二等 同 同 同 水夫同

華士族 運轉手免狀 號 同 同 同

平民何 第 號

誰若ノ 甲乙種一等 機手關 同 同 同 油差同

ハ會社 機關手免狀 號

甲乙種二等 機關手免狀 同 同 同 火夫同

第 號

甲乙種、 免狀 同 同 同 何々同

第 號 何々 同 同 何々同

以下右ノ振合ニ倣ヒ各船各乘組人員ヲ列記シ且外國人ハ氏名欄内ニ其國名ヲ記入スヘシ

○鑛山試堀及採堀等取調ノ件 明治二十七年十月八日訓令乙第三百七

十三號(郡市)

鑛山試堀及採堀並砂鑛採取等ノ出願ニ對シ本廳内務部ヨリ移牒候節ハ到達ノ日

ヨリ十五日以内ニ左ノ事項取調具申スヘシ

但明治二十六年五月本縣訓令 第六十二号ハ廢止ヌ

一 其事業公益ニ害アルヤ否

二 出願地ノ字名公簿ニ附合スルヤ否

三 砂鑛採取願ニ關シテハ前項ノ外出願所有地ノ者住所氏名

○砂鑛又ハ鑛石ヲ買入レ製煉ノ件 明治二十八年五月一日縣令第廿号

他人ノ採掘セル鑛石ヲ買入レ製煉スル者又ハ砂鑛ヲ製煉スル者ハ左ノ條項ニ準スヘシ

一新ニ從事スル者ハ製煉場ノ位置製煉ハノ住所族籍氏名ヲ其時々届出ヘシ

廢業其他異動ヲ生シタルトキモ亦前項ニ據ルヘシ

一 製煉人ハ左ノ雛形ニ依リ一箇年ノ工程ヲ収調ヘ翌年二月十五日限縣廳ヲ經

由シテ 農商務省ニ差出スヘシ

但鑛業條例ニ掲グル鑛業ト人雖トモ買入鑛石ニ係ル分ハ前項ニ據ルヘシ

一休業中ノ者ハ前項明細表記事欄内ニ其旨ヲ記入シ差出スヘシ
（用紙美濃紙）

明治何年何礦製煉行業明細表

製煉工場位置	製煉人	住所族籍	氏名
礦品	越高	買入高	製煉ニ附セン鑛石高
製品	越高	製出高	販賣
記事			數量 代價 殘高
注意			

金銀ハ及錫ハ斤鑛石及鉄ハ貫ヲ單位トス
 自己ノ採取セル砂鑛ヲ製煉スル場合ニ於テモ買入タルモノ同一ニ買入高
 ノ欄ニ記入スヘシ製出高ハ其品類ニ依リ各別ニ記入スヘシ
 ○水製巡回教師ニ關スル規程 明治廿八年六月廿八日告示第廿五號
 水産巡回教師ニ關スル規程左ノ通知定ム

第一條 水産業ノ改良増進ヲ圖ラシムカ爲メ水産巡回教師ヲ置キ實地ノ教授及ヒ講
 話ヲナサシム

第二條 水産業實地ノ教授及講話ハ左ノ科目ニ依ル
 一 水産論(動植物)(氣象)(海上地文)(漁業經濟)
 一 魚介苔藻蕃殖法 一 漁 一 製造法

第三條 水産業實地ノ教授ハ一郡一回ニ付二週日以内トス
 但時宜ニヨリ伸縮スルコトアルヘシ

第四條 水産業實地ノ教授ヲ受ケントスル者ハ漁業組合又ハ營業者協議ノ上適宜
 區域ヲ定メ所管郡市役所ヲ經テ出願スヘシ

第五條 水産業實地教授用ニ供スル器具及ヒ原料ハ一切出願者ノ自辨トス
 第六條 漁船漁具及ヒ製造物ノ改良ヲ計畫シ實地ノ指導ヲ請フ者アルトキハ特ニ
 巡回教師ヲ派遣セシムルコトアルヘシ
 第七條 製造物及ヒ魚苔藻蕃殖ノ試験ヲ要スル爲メ實地ノ設計ヲ請フ者アルトキハ

巡回教師ヲ派遣セシムルコトアルヘシ

第八條 講話ハ漁業組合若クハ當業者ニ於テ開設スル集談會ニ臨ミ又ハ隨時有志者ヲ集メ第二條ノ科目ヲ斟酌演述スルモノトス

第九條 集談會ニ巡回教師ノ派遣ヲ請フトキハ其時日場所等ヲ詳記シ二週日以前ニ所管郡市役所ヲ經テ出願スヘシ

○漁業組合準則 明治十九年七月一日甲第六十四號

漁業組合準則左ノ通相定ム

但明治十八年九月甲第九十號布達ハ廢止ス

右布達候事

漁業組合準則

第一條 漁業(水産動物採捕ヲ併稱ス)ニ従事スルモノハ適宜區域ヲ定メ組合ヲ設ケ規約ヲ作り縣廳ノ許可ヲ請フヘシ

但漁者僅少ニシテ他ノ漁場ニ關係セサル地ハ縣廳ノ認可ヲ受ケ組合ヲ設置

セサルコトヲ得

第二條 組合ハ營業ノ弊害ヲ矯正シ利益ヲ増進スルヲ目途トスヘシ

第三條 組合ハ左ノ二類トス

第一類 採藻(遠海漁業若クハ大址引臺網捕鯨鯨漁海苔採收ノ類)各其種類ニ從ヒ特ニ組合ヲナスモノ

第二類 河海湖沼沿岸ノ地區ニ於テ各種ノ漁業ヲ混同シテ組合ヲナスモノ

第四條 前條第二類ノ漁業ニシテ漁業ノ相連帶スルモノハ必ス一組トナスヘシ

第五條 組合ノ規約ニ掲クヘキ事項ハ左ノ如シ

一 組合ノ名稱及事務所ノ位置

二 役員撰舉法及權限

三 加入者及退去者ニ關スル規程

四 費用徴収及賦課法

五 捕魚採藻ノ季節ヲ定ムル事

六 違約者處分ノ方法

七 捕魚採藻ノ季節ヲ定ムル事

八 捕魚採藻ノ季節ヲ定ムル事

九 漁具漁法及採藻ノ制限ヲ定ムル事

十 漁場區域ニ關スル事

十一前各項ノ外組合ニ於テ必要トナス事項

第六條 組合ハ規約ヲ更正シ若クハ其組合ヲ分立合併セントスルトキハ更ニ認可ヲ請フヘシ

第七條 組合ハ聯合會ヲ設ケ其規約ヲ作り若クハ之ヲ更正セントスルトキハ更ニ認可ヲ請フヘシ

第八條 他管轄ヘ涉ル組合聯合會ノ規約ハ交渉管轄廳ヲ經テ農商務省ノ認可ヲ請フヘシ

第九條 他管轄ヘ涉ル組合ハ便宜ノ地ニ事務所本部ヲ設クヘシ

第十條 前條事務所本部ヲ他管内ニ設クルトキハ當縣下ニ事務所支部ヲ置クヘシ但組合ノ事情ニヨリ必要ナラサル場合ニ於テハ認可ヲ受ケ之ヲ置カサルコトヲ得

○漁業組合違犯者處罰ノ件 明治二十六年八月五日縣令第二十四號

漁業組合ノ設ケアル沿海ニ於テ漁業採藻ヲナスモノハ其地組合同規約ノ制限禁止ヲ條項ヲ遵守スヘシ犯ス者ハ三日以上十日以下ノ拘留ニ處シ又ハ二圓以上二圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

○鮭鱒漁業取締規則 明治二十一年十月十三日縣令甲第八十二號
鮭鱒漁業取締規則左之通相定ム

但明治二十年縣令甲第八十號ハ廢止ス

鮭鱒漁業取締規則

第一條 此規則ハ久慈郡珂鬼怒利根ノ四川ニ施行スルモノトス

第二條 鮭鱒漁具中左ノ漁具ヲ使用スルヲ禁ス

一 竹留

一 無双網(一名オコシアミ)及異名類似ノ者

一 網留

一 劔先網

第三條 郡珂久慈三川ニ於テ地曳網ヲ使用スルハ左ニ記載スル場所並員數ニ限リ之ヲ許シ其他ハ一切使用スルヲ禁ス

那珂川(那珂郡勝倉村ヨリ川口マテ)

六張

久慈川(那珂郡石神外宿ヨリ川口マテ)

三張

但本條地曳網ノ川南遮斷ハ網卸后一時間ヲ超ユルコトヲ得ス

(明治二十七年九月縣令第三十八號追加)

第四條 那珂久慈鬼怒ノ三川ニ於テハ鮮鱒漁期中川地曳網ヲ使用スルヲ禁ス全上

第五條 利根川ニ於テハ二百間以上ノ地曳網ヲ使用スルヲ許サス

第六條 新規ノ漁具ヲ使用セント欲スルモノハ其漁具圖面名稱寸尺及使用法ヲ詳

記シ縣廳へ出願許可ヲ受クヘシ

但從來ノ漁具ヲ變形使用セントスルモノモ亦本文ニ準ス可シ

第七條 鮮鱒ハ九月一日ヨリ十一月卅日迄鮮鱒ハ三月一日ヨリ七月十五日迄トス

其他ノ期節ニ於テハ一切捕獲スルコトヲ禁ス

第八條 各川ニ於テ鮮鱒ノ放置セル卵子ヲ採取シ或ハ八寸末滿ノ鮮鱒兒ヲ捕獲ス

ルヲ禁ス

第九條 此規則ヲ犯シタルモノハ十日以内ノ拘留又ハ一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

○利根川無双網使用ノ件 明治二十一年十月縣令甲第八十二號

明治二十一年縣令甲第八十一號鮮鱒漁業取締規則第二條中無双網ハ利根川ニ限リ當分使用スルヲ許ス

○鮑捕獲ノ潜水器械使用ノ件 明治二十五年十二月十七日縣令甲第七十五號

管下沿海ニ於テ鮑ヲ捕獲スル爲メ使用ノ潜水器械ハ一日二十臺ヲ限リ之ヲ許ス前項ニ據リ潜水器械ノ免許ヲ請ハントスル者ハ組合ヲ設ケ規約ヲ作り若クハ其地ノ漁業組合へ加入ノ上所管郡役所ヲ經由シ縣廳へ出願許可ヲ受クヘシ前項ノ許可ヲ受ケヌシテ使用シタル者ハ三日以上十日以下ノ拘留ニ處シ又ハ一圓以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス 明治廿六年六月八日縣令第十七號追加

○湖沼川漁業採藻取締規則 明治二十一年十一月二十八日縣令甲第九

湖沼川漁業採藻取締規則左之通り制定、明治二十二年四月一日ヨリ施行ス

但明治二十一年縣令甲第二十九號第七項及同第八十一號ヲ除クノ外從前ノ
布達等此規則ニ抵觸スルモノハ本令施行ノ日ヨリ廢止ス

湖沼川漁業採藻取締規則

第一條 本縣管内ニ於テ從來使用セサル器具ヲ用テ漁業採藻ヲ爲サントスル者ハ
縣廳ノ免許ヲ受クヘシ

第二條 河川ニ於テ簀立及簀卷漁大徳網漁梁漁於藻漁ヲ爲スヲ禁ス

第三條 下利根川中鹿嶋郡矢田部村地先流村界ヨリ下流川口迄ノ間ニ於テハ毎年
四月一日ヨリ九月二十日迄細美網及鰻手操網ヲ使用スルヲ禁ス

但細美網ヲ以テ帆打セ潮打セ等ニテ(コマセ)(白魚)漁ノミヲ爲スハ此限り

ニアラス 明治二十五年五月縣令第二十四號插入今年十一月縣令第四十六

號追加

第四條 霞浦水涯五十間以内ニ於テ於藻漁ヲ爲スヲ禁ス 明治二十七年五月縣

第五條 左ノ湖沼ニ於テハ簀立及簀卷漁ヲ爲スヲ得

令第二十四號插入

但左ノ制限ヲ超ユルヲ得ス

霞 浦 直經百間以内

但水涯五十間以上ノ距離タルヘシ

北 浦 直經六十間以内

但水涯二十間以上ノ距離タルヘシ

浪逆浦 直經六十間以内

但水涯十五間以上ノ距離タルヘシ

沼 沼 直經六十間以内

但水涯十五間以上ノ距離タルヘシ

第六條 浪逆浦中北利根川ヨリ下利根川ニ達スル流域ニ於テ簀立及ハ簀卷漁於藻
漁ヲ爲スヲ禁ス

第七條 霞浦中高濱入(新治郡川中村地先ヨリ同郡安食村ヲ見通シ高濱村迄ノ湖
沼ヲ云フ)土浦入(新治郡加茂村崎濱ヨリ信太郡舟子村ヲ見通シ土浦町地先マ
ノ湖面ヲ云フ)ト唱ナル場所ニ於テ簀立及簀卷漁コト網漁白魚網漁及異名類似ノ

漁網ヲ使用スルヲ禁ス

第八條 コロ網ハ夜中使用するルヲ禁ス

但ニハ(方言)ヲ捕獲スルタメ使用スルハ此限リニアラス

第九條 毎年一月一日ヨリ二月十日迄七月一日ヨリ八月十日迄大徳網ヲ使用スルヲ禁ス

第十條 鰻長袋網ヲ以テ河川ノ全面ヲ横塞スルヲ禁ス

但河川ノ全面ヲ横塞セサルト雖水利舟行ニ妨害アルモノハ本條ニ同シ

第十一條 マン鋏ヲ用テ蠣ヲ捕獲スルヲ禁ス

第十二條 タット唱フル鯛子ヲ捕獲スルヲ禁ス

第十三條 毎年七月一日ヨリ八月十日迄鰻漁ヲナスヲ禁ス

第十四條 湖沼ニ於テ毎年十一月一日ヨリ翌年四月十日迄採藻ヲ爲スコトヲ禁ス

第十五條 臨時官ヲ吏派シ漁業及採藻ノ實況ヲ検査セシムルコトアルヘシ

第十六條 洪水又ハ他ノ必要ノ場合アルトハ漁業採藻ノ場所季節器具等ヲ特ニ制

限シ又ハ禁止スルコトアルヘシ

第十七條 本則第一條第二條第三條第四條第五條但書第六條第七條第八條第九條

第十條第十一條第十二條第十三條第十四條ヲ犯シ若クハ第十六條ニ依リ設ケタ

ル制限禁止ヲ犯ス者ハ十日以内ノ拘留又ハ壹圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

(明治廿七年五月縣令第二十四號改正)

○漁業採藻禁止ノ件 明治廿三年八月十五日訓令第八十三號(郡市)

湖沼川ニ於テ洪水又ハ他ノ必要ニヨリ漁業採藻ノ場所季節器具等ヲ臨時ニ制限シ又ハ禁止ヲ要スル場合アリト認ムルトハ其事由ヲ取調開申スヘシ

但湖沼川他ノ管轄ト交渉スルトハ交渉地ノ各郡長彈劾シ若シ意見ヲ異ニスル場合ニ於テハ其旨同時ニ具申スヘシ

○仙波湖魚漁獵放銃禁止 明治廿一年六月廿六日縣令甲第六十二號

今般仙波湖御獵場被廢止候處同湖ニ於テハ従前ノ通魚漁獵及放銃ヲ禁止ス

○博覽會共進會開設報告 明治二十四年二月六日訓令第十號(郡市)

博覽會共進會其他之ニ類似ノ會ニシテ褒賞ヲ附與スルモノヲ開設シタルトキハ
左ノ書式ニ準シ閉會後二十日限報告スヘシ

但明治二十年丙第八十一號訓令ハ廢止ス

明治何年官民設何會報告書

會場地名 國郡市町村名

會名 何博覽會何共進會ト記スヘシ譬ハ水産博覽會繭糸共進會ト

云フカ如シ其ナキモノハ單ニ博覽會共進會物産會展覽會品評
會ト記スヘシ

會主 何郡市或ハ何會社或ハ何某

開場 何月何日

褒賞授與式 何月何日

閉場 何月何日

出品區域 何郡市聯合或ハ一管下一般或ハ何郡市町村聯合

出品人員 何人

出品員數 若干

出品總價 何圓錢

出品種類 農産水産或ハ陶器漆器織物等成ルヘク詳細ニ記スヘシ且農産

水産ハ其物品ヲ詳細ニ記スヘシ

出品賣數 若干

出品賣價總額 何圓錢

褒賞給人員 何人

褒賞等級別 一等人二人三等人三等人褒狀何人退賞何人功勞賞何人協賛

賞何人

褒賞々與物件 杯或ハ何物或ハ金圓(譬ハ一等人何物品或ハ金何圓二等何々

等)成ルヘク詳細ニ記スヘシ

來觀人員 何人

通券價格 何錢(日曜日平日等ノ區別アレハ各別ニ記スヘシ)

通券收額 何圓錢

會費總額 何圓錢

會費區別 地方稅何圓通券料何圓或ハ陳金義捐金等成ルヘシ詳細ニ記ス

ヘシ

本會景況 云々

譬ヘハ特殊發見ノ鑛物或ハ有用動物ノ近來生殖セル者或ハ陶器織物其他製
作品ノ著ルシク改良進步セシ者或ハ從來其地ニナシテ新ニ製作移殖セシ
ムルモノ或ハ輸入品ニ代用スヘキモノ或ハ將來輸出ノ目的アルモノ或ハ近
年輸出ノ緒ニ就キシモノ等都テ工藝品農產物水產物ニ關シ會場ノ景況ハ勿
論后来ニ希圖スル意見及一般人民ノ意思傾向等成ルヘク詳密ニ記載シ且連
年開設ノモノハ前年ノ比較ヲ掲ケ又民設ニ係ルモノハ其損益及保續ノ目的
等ヲ詳細記載スヘシ

右報告候也

郡市長 姓名印

○産馬業組合規則 明治二十九年三月二日縣令第四十號

産馬業組合規則左之通相定メ左記ノ地方ニ限リ之ヲ施行ス

久慈郡大子町宮川村黒澤村佐原村依上村袋田村生瀬村上小川村下小川村諸富

野村天下野村小里村中里村賀美村河内村多賀郡高岡村黒前村華川村關本村北

中郷村

産馬業組合規則

第一條 本則ニ於テ産馬業ト稱スルハ專業兼業ノ別ナク馬匹ノ蕃殖ヲ爲スチ云フ

第二條 産馬業ニ従事スル者ハ本則ニ準據シ産馬業組合ヲ設ケ規約ヲ作り知事ノ

認可ヲ請フヘシ

第三條 産馬業組合規約ニ掲クヘキ事項ノ概目左ノ如シ

一 組合ノ名稱地區及ヒ事務所ノ位置

二組合ノ目的及ヒ事業施設ノ方法

三役員ノ選舉方法及ヒ其權限

四會議ニ關スル規程

五加入者及ヒ退去者ニ關スル規程

六費用徴収及ヒ賦課ノ方法

七違約者處分ノ方法

右ノ外組合ニ於テ必要トスル事項

第四條 產馬業組合ハ左ノ地方區域毎ニ一組合ヲ設クヘシ

大子町地方區域

久慈郡大子町宮川村黒澤村佐原村依上村袋田村生瀬村上小川村下小川村

諸富野村

小里村地方區域

久慈郡小里村賀美村天下野村

高岡村地方區域

多賀郡高岡村北中郷村華川村關本村

黒前村地方區域

多賀郡黒前村久慈郡中里村河内村

第十五條 產馬業組合ハ產馬ノ改良蕃殖ヲ目的トスルモノニシテ其施設スヘキ事

項ノ概目左ノ如シ

一蕃殖用牝牡馬ノ血統及ヒ体格ノ撰擇方法ヲ設クル

二種馬ノ購入又ハ貸借ノ方法ヲ設クル

三種馬ニ適當ナル仔馬保存法ヲ設クル

四產馬品評會又ハ共進會ヲ開設スル

五產馬業集談會ヲ開ク

六馬ノ賣買生産死亡等ヲ明カニシ本業ノ盛衰消長ヲ知ルニ便ナラシムル

七組合員ノ產馬ハ同時ニ賣却ニ附シ賣買上ノ弊害ヲ矯正スル

八 產馬業ノ利害ニ關シ意見アルモ官廳ニ上申シ又ハ其諮問ニ答フルヲ

第六條 產馬業組合役員ハ名稱及ヒ其員數ヲ定ムル左ノ如シ

但土地ノ情況ニ依リ便宜役員ヲ省察スルコトヲ得

組長 一名

副長 一名

會計主務 一名

評議員 若干名

書記 一名

第七條 組長副長會計主務評議員ハ總會ニ於テ撰舉シ書記ハ組長之ヲ撰任ス

第八條 組長副長及評議員ハ名譽職トス

第九條 組長副長會計主務評議員ノ任期ハ滿三ケ年トス

但滿期後再撰セラル、ヲ得

第十條 組長ハ組合ヲ代表シ組合一切ノ事務ヲ總理シ評議員會及ヒ總會ヲ召集シ

且會議ノ議長トナリ議事ヲ整理ス

第十一條 副長ハ組長事故アルモ其職務ヲ代理ス

第十二條 會計主務ハ組長ノ指揮ヲ受ケ金錢ノ出納ヲ掌ルモノトス

第十三條 評議員ハ評議員會ノ議員トナリ總會ノ委任ヲ受ケタル事項ヲ議決シ又

ハ組長ノ諮問ニ對シ意見ヲ述ブルモノトス

第十四條 書記ハ組長ノ指揮ヲ受ケ庶務ニ従事ス

第十五條 總會ハ組合總員ヲ以テ成立スルヲ通則トス

但一町村若クハ一大字内組合員總代ヲ以テ總會ノ議員トナスコトヲ得

第十六條 總會ニ於テ議定スヘキ事項ノ概目左ノ如シ

一 組合規約ノ

二 役員撰舉ノ

三 事業ノ施設及ヒ其利害ニ關スル

四 經費ノ收支豫算及ヒ決算ニ關スル

右ノ外總會ニ於テ必要トスル事項

第十七條 組合經費ノ決算及ヒ收支豫算ハ其都度縣廳ヘ報告スヘシ

第十八條 産馬業組合ノ設ケアル地區内ニ於テ産馬業ニ従事スル者ハ其地組合ニ

加盟スヘシ

第十九條 組合員ハ組合規約ニ違背スルコトヲ得ス

第二十條 馬市場ハ各組合便宜ノ場所ヲ撰定シ開市毎ニ豫メ他ノ組合ニ協議ノ上

其期日ヲ定メ全時ニ所管郡役所ヲ經由シテ知事ノ認可ヲ受クヘシ

第二十一條 本則第十八條第十九條ヲ犯シ又ハ知事ノ認可ヲ經スシテ馬市場ヲ開

設シタルモノハ一圓以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

○船車取締規則 明治二十九年十二月八日縣令第五十二號

船車取締規則左之通相定ム

船車取締規則

第一條 船舶ヲ所有スルモノハ其船舶定繫場ヲ定メ噸數又ハ間數ヲ記載シ定繫場

所在ノ郡市役所ニ届出検査ヲ受ケ鑑札ヲ請フヘシ但商船規則及船鑑札規則ニ依リ登簿船免狀又ハ船鑑札ヲ受有スル船舶ハ此限リニアラス

免稅船ヲ有稅船ト爲サントスルトキハ前項ノ手續ニ依リ鑑札ヲ請フヘシ

第二條 船鑑札ハ船舶ニ備ヘ置クヘシ但鮮漁船川船及積石五十石未満ノ海船ノ鑑

札ハ其船ノ艫外部後面ニ釘付スヘシ

第三條 車ヲ所有スルモノハ其種類ヲ記載シ郡市役所ニ届出テ檢印ヲ請フヘシ

免稅車ヲ有稅車ト爲サントスルトキハ前項ノ手續ニ依リ檢印ヲ請フヘシ

第四條 船舶ヲ賣却讓與シタルトキハ双方連署ノ上買受人又ハ讓受人ノ定ムル定

繫場所在ノ郡市役所ニ届出テ鑑札ノ書換ヲ請フヘシ車ヲ賣買讓與シタルトキハ

双方連署ノ上買受人又ハ讓受人ノ所轄郡市役所ニ届出ツヘシ

第五條 左ノ場合ニ於テハ速ニ郡市役所ニ届出テ檢印又ハ鑑札ノ再授ヲ請フヘシ

但原書ニハ舊檢印又ハ鑑札ヲ添付スヘシ

一檢印又ハ鑑札ノ磨滅又ハ亡失毀損シタルトキ

二船体車体ヲ修繕シ又ハ變更シタルトキ

三馬車馬ノ匹數ヲ増減シタルトキ

四普通荷臺ノ外別ニ積載ノ場所ヲ架設シ其坪數ヲ増加シタルトキ

五改名又ハ代替ノトキ

六住所ヲ移轉シ又ハ定繫場ヲ交換シタルトキ

第六條 船車ヲ破壊シ亡失シ又ハ解散シタルトキハ其事由ヲ記シ檢印又ハ鑑札ヲ

添付シ郡市役所ニ届出ツヘシ亡失シタル船車ノ所在ヲ發見シタルトキハ速ニ届

出ツヘシ

第七條 左ニ掲グル舟車ヲ所有スル者ハ郡市役所ニ届出テ免稅ノ檢印ヲ請フヘシ

一耕作一途ニ用ユル舟車

一水災ノ爲メ陸地ニ備ヘ置ク舟

三倉庫船

四橋梁ニ換ヘ渡船ノミニ用ユル船

五航海中本船ニ掲ケ置ク傳馬船(ハツターラ)船ノ類

六水車船

七船橋ノ組成ニ用フル船

八郵便物遞送ニ專用スル車ニシテ遞信省ノ檢定ニ依リ構造スルモノ

九避病院所屬ノ車ニシテ傳染病患者消毒藥品若クハ死休汚穢物ヲ運搬スル者

十非常専用ノ車

第八條 第一條第三條及第六條第二項ニ違背シタルモノハ二圓以上十圓以下ノ罰金ニ處ス

第九條 第二條及第五條ノ第二號第三號第四号ニ違背シタルモノハ五錢以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

附則

第十條 此規則ハ明治三十年一月一日ヨリ施行ス

第十一條 此規則施行ノ際現在ノ船車ニシテ船車稅規則ニ依リ從來受有シタル檢

印及鑑札ハ尙其効ヲ存ス

○船車取締規則施行細則 明治二十九年十二月廿八日訓令ニ第四百

十一號 (郡市)

船車取締規則施行細則左ノ通相定メ明治三十年一月一日ヨリ施行ス

船車取締規則施行細則

第一條 西洋形蒸氣風帆船ノ鑑札ハ第一號書式解漁船川船及積石五十石未滿ノ海船ノ鑑札ハ第二號書式ニ依リ調製下付スヘシ

第二條 噸數一噸間數一間ニ止メ其以下ノ端數ハ切捨ツヘシ

但噸數ノ測度方法ハ船舶積量測度規則ニ從ヒ調製スヘシ

第三條 船鑑札ノ書換ヲ請フモノアルトキハ更ニ該船ノ検査ヲ要セス舊鑑札ニ記載ノ噸數又ハ間數ニ依リ書換ノ上下付スヘシ

但船車取締規則第五條第二號ノ場合ハ此限リエアラス

第四條 荷積車ハ荷臺(全ク荷物ヲ積載スル場所)ノ縱横相乘尺積十四坪以上ヲ以

テ大七車以上トシ十四坪未滿ヲ以テ中小車トシ區別スヘシ

第五條 人力車ハ横中内法二尺未滿チ一人乗トシ二尺以上チ二人乗トシ區別スヘシ

第六條 烙印ノ種類並ニ烙印ノ位置左ノ如シ

一 種類 (零ス)

二 位置 (零ス)

第七條 船車臺帳ハ左ノ手續ニ依リ整理スヘシ

左ノ場合ニ於テハ鑑札ノ下付又ハ檢印ヲ爲シタル日ヲ以テ臺帳ヲ加除スヘシ

一 船車ヲ新調シタルトキ

一 有稅船車ヲ免稅船車ト爲シ免稅船車ヲ有稅船車ト爲シタルトキ

一 船ノ賣却讓與ヲ爲シ又ハ住所ノ移轉又ハ定繫場ヲ變換シタルトキ

左ノ場合ニ於テ届書ノ月日(届書特ニ月日ヲ記載シタルモノハ其月日)ヲ以テ臺帳ヲ加除スヘシ

一 車ノ賣却讓與ヲ爲シ又ハ代替等ノ爲メ氏名ヲ變更シタルトキ
 一 船取ノ公賣ニ付セラレタルトキ
 一 車ノ所有八住所ヲ移轉シタルトキ
 住所定繫場又ハ所有權ノ移轉ニ依リ所轄廳ヲ變更スルニ至リタルトキハ新所轄廳ニ於テハ前項ニヨリ彙帳ニ登記シ其登記月日ヲ舊所轄廳ニ通報シ舊所轄廳ハ新所轄廳登記ノ月日ヲ以テ彙帳ヲ删除スヘシ
 解散又ハ亡失等ニ係ルモノハ其届書收受ノ日ヲ以テ彙帳ヲ删除スヘシ但盜難流失扼逃等ノ事故ニ因リ所在ヲ失ヒタルモノハ別ニ帳簿ヲ製シ其要領ヲ記載シ置キ所在發見ノ届出アリタルトキハ其事實ヲ照查シ所在發見ノ日ヲ以テ更ニ彙帳ニ登記スヘシ

第一號書式 第二號書式 (書式略ス)

○水産講習所規程 明治廿一年八月七日縣令第四十號

茨城縣水産講習所規程左ノ通り相定ム

茨城縣水産講習所規程

第一條 水産講習所ハ水産ニ關スル簡易ノ學術ヲ講習シ以テ斯業ノ改良發達ヲ圖ルヲ目的トス

第二條 講習生ハ左ノ資格ヲ有スルモノタルヘシ

- 一 年齢十六歳以上ノ男子ニシテ本縣在籍ノモノ
- 二 品行方正ニシテ平素水産業ニ熱心ナルモノ
- 三 普通ノ讀書及算術ヲ爲シ得ルモノ

第三條 水産講習所ニ於テハ左ノ科目ヲ教授スルモノトス

- 一 漁撈法
- 二 製造法
- 三 養殖法
- 四 漁業經濟

第四條 水産講習所ノ位置及講習日割ハ別ニ之ヲ告示ス

第五條 講習ヲ受ケントスル者ハ第一書式ニ依リ入所願ヲ開所十日前ニ所在郡市役所ニ差出スヘシ所在郡市役所ニ於テ前項ノ願書ヲ受ケタルトキハ之ヲ取纏メ開所當日迄ニ水産講習所長ニ送付スヘシ

第六條 規程ノ科目ヲ講習シタルモノハ試験ニ上第三書式ノ修業証ヲ授與スルモノトス

第七條 講習生ハ其得業セシ科目ヲ實驗シ市町村ノ當業者ニ報告若クハ誘導スルノ義務アルモノトス

第八條 講習生タルノ本分ニ背戻スルモノハ時宜ニ依リ退所ヲ命スルコトアルヘシ

第九條 水産講習所ニ關スル費用ハ總テ講習生ノ自弁トス

第一書式 入所願(書式畧ス) 第二書式 修業証(書式畧ス)

○農事講習所規程 明治三十年八月七日縣令第四十一號

茨城縣農事講習所規程左ノ通り相定ム

但明治二十一年三月茨城縣令丙第廿號農事講習所設置手續三十二年二月茨城縣令甲第四號農事巡回教師教授方ハ廢止ス

茨城縣農事講習所規程

第一條 農事講習所ハ農事ニ關スル簡易ノ學術ヲ講習シ以テ斯業改良務達ヲ圖ル

ヲ目的トス

第二條 講習生ハ左ノ資格ヲ有スルモノタルヘシ

- 一 年齡十六歲以上ノ男子ニシテ本縣在籍ノモノ
- 二 品行方正ニシテ平素農事ニ熱心ナルモノ
- 三 普通ノ讀書及算術ヲ爲シ得ルモノ

第三條 農事講習所ニ於テハ左ノ科目ヲ教授スルモノトス

但地方ノ狀況ニ依リ造林水産又ハ製糸ノ科目ヲ加フルコトヲ得

- 一 普通作物
- 二 特用作物
- 三 土壤及肥料
- 四 養蚕
- 五 農業經濟

第四條 農事講習所ノ位置及講習日割ハ別ニ之ヲ告示ス

第五條 講習ヲ受ケントスル者ハ第一書式ニ依リ入所願ヲ開所十日前提ニ所在郡市役所ニ差出スヘシ

所在郡市役所ニ於テ前項ノ願書ヲ受ケタルトキハ之ヲ取纏メ開所當日迄ニ農事

習講師所長ニ送付スヘシ

第六條 規程ノ科目ヲ講習シタルモノハ試験ノ上第二書式ノ修業証ヲ授與スルモ
ノトス

第七條 講習生ハ其得業セシ科目ヲ實驗シ市町村ノ當業者ニ報告若クハ誘導スル
ノ義務アルモノトス

第八條 講習生タルノ本分ニ背戻スルモノハ時宜ニ依リ退所ヲ命スルコトアルヘシ

第九條 農事講習所ニ關スル費用ハ總テ講習生ノ自弁トス

第一書式 入所願(書式畧ス) 第二書式 修業証(書式畧ス)

○共進會品評會設置規程 明治三十年八月廿八日縣令第四十五號

共進會品評會設置規程

第一條 地方重要物産ノ共進會品評會ヲ開設シ審査官ノ派遣及褒賞授與ヲ申請セ
ントスルモノハ此規程ニ據ルヘシ

第二條 前條ノ申請書ハ開會ニケ月前會則ヲ添へ所轄市役所ヲ經由シ差出スヘ

第三條 會則ニ記載スヘキ事項左ノ如シ

- 一 會ノ名稱位置及出品區域
- 二 出品種類並ニ出品人員概數
- 三 會ノ開閉並褒賞授與期日
- 四 出品ニ關スル規程
- 五 經費支弁ノ方法
- 六 其他必要ノ事項

第四條 共進會ニ在テハ出品人ヨリ其出品物ニ關スル申告書ヲ差出サシムヘシ

第五條 左ノ諸項ノ一ニ該當スル共進會品評會ニ於ケル優等者ニハ褒賞ヲ授與ス
ヘシ

一 郡布又ハ一町村以上ヲ出品區域トシテ開設スルモノ

二 縣郡市町村農會ノ主催ニ係ルモノ

三 知事ノ認可ヲ受ケタル産業組合ノ主催ニ係ルモノ

第六條 共進會品評會ニハ三名以上ノ審査員ヲ置クヘシ

○製絲講習所規程 明治三十年十二月二十日縣令第五十六號

製絲講習所規程左之通り相定ム

製糸講習所規程

第一條 製糸講習所ヲ設置シ本縣製糸巡回教師ノ派遣ヲ請ハントスルモノハ此規程ニ據リ兩所一ヶ月前ニ所轄郡市役所ヲ經由シ其設置ノ認可ヲ出願スヘシ

第二條 製糸講習所ノ設置ハ左ノ各項ニ該當スルヲ要ス

- 一 本縣内製糸家五人以上ノ出願ニ係リ其設備完全ナルモノ
- 二 講習生三十名以上アルモノ

第三條 第一條ノ出願書ニ記載スヘキ事項左ノ如シ

- 一 講習所名稱及位置
- 二 講習所ノ規則
- 三 所費支弁ノ方法
- 四 生徒取締規則
- 五 其他必要ト認ムル事項

第四條 製糸講習所ニハ敎婦科工女科造荷科又ハ瀛罐手火夫科ヲ置クヘシ

但シ各科ヲ通シ一期三十日以上トスヘシ

第五條 製糸講習生ハ左ノ資格ヲ具備スルヲ要ス

一 本縣内ニ居住シ品行方正ニシテ製糸業ニ熱心ナルモノ

二 尋常小學卒業ノモノ若クハ之ト同等以上ノ學力ヲ有スルモノ

第六條 三十名以上ノ座繰工女ヲ養成スルノ目的ヲ以テ臨時講習所ヲ設置シ其講習期日ヲ定メ本縣製糸巡回教師ノ派遣ヲ請フトキハ時宜ニ依リ之ヲ許可スルトアルヘシ

土木地理

○管内里程 明治十五年二月二十五日丙第十九號

各町村ヨリ縣廳及郡役所迄之里程明治十三年丙第三十三号ヲ以相達置候處下市起程元標先般上市ヘ移轉候ニ付更ニ別冊之通改正候條此旨相達候事

但町村起程標及ヒ道標未タ建設無之或ハ建設ノミニテ里程記入セサルモノ往々有之哉ノ趣相聞衆庶ノ不便不勘候ニ付早々建設里程記入致可キ事

○管内里程 明治十八年五月二日乙第四十七號

明治十五年本縣丙第十九號達里程調書中別紙之通追加且ッ更正候條此旨相達候

事

但知ノ村方ニ於テハ去ル明治十五年丙第三十三號達ニ準據シ里程標及道標ヲ建設スヘシ(別冊零ス)

○國縣里道取調ノ件 明治二十二年三月廿三日訓令第二十二號(舊)國縣里道間數ハ明治十年中取調差出有之候處今般地押調査整理ニ付テハ明治十年ノ取調ニ多少差異ヲ生シタルハ必然ノ義ニ有之右取調目下要用ニ付里道ニ限リ此際別紙雛形ノ通り調製來ル四月三十日限リ其役所ニ取調ノ遅延ナク差出スヘシ

但本年以後異動ヲ生シタルモノハ毎年一月三十一日限リ前年十二月三十一日現在ノ分取調ヘ差出ス可シ

明治二十六年七月訓令乙第百十六號ヲ以テ但書ヲ除ク外報告ヲ廢止ス

○國道縣道線路 明治十六年六月二十八日乙第六十七號

明治十二年乙第八十三號布達中國道縣道ノ路線更ニ別紙ノ通り假定候條此旨布

達候事

明治十七年七月二十六日改稱全十七年八月二十一日甲第三七號追加全二十年七月十九日甲第五三號改正追加全二十年十月二十四日甲第六九號改正全二十一年二月二十九日甲第二二號改正全二十一年九月二十日甲第七六號改正全二十一年十二月二十八日告示第二五二號追加全二十七年七月十六日縣令第三〇號改正追加全二十九年十月十日縣令第四十七號改正

國縣道調

太政官 第六號

一東京ヨリ函館ニ達スル路線

里程二里一丁四十四間四尺四寸

但崎玉縣管地武藏國北葛飾郡栗橋驛對岸下總國西葛飾郡中田町池内利根川

海津ヨリ西葛飾郡古河町ニ至リ栃木縣管地下野國都賀郡野木驛ニ接ス

第十四號

一全茨城縣ニ達スル路線

里程十九里二十四丁五十一間二尺

但千葉縣管地下総國南相馬郡青山村對岸北相馬郡大鹿村地内利根川渡津ヨリ同郡小浮氣村ヲ經テ常陸國東茨城郡水戸上市茨城縣廳ニ達ス

第十五號

一東京ヨリ宮城縣ニ達スル別線路

里程拾七里壹町四十八間貳尺五寸七分

但第十四號國道東京ヨリ茨城縣街道ノ内東茨城郡水戸上市白銀町ヨリ分派

同郡細谷村ニテ那珂川渡津ヲ渡リ多賀郡關本村大村關本中ニ至リ福嶋縣管

地磐城國新田郡關田村ニ接ス

三線 合里程延長三十八里廿八丁廿四間二尺九寸五分

縣道

一本縣ヨリ福嶋縣街道

里程十三里十二丁三十七間二寸

但第十四號國道東京ヨリ茨城縣街道ノ内水戸上市白銀丁ヨリ分派東茨城郡

常磐村ニテ那珂川渡津ヲ渡リ那珂郡額田北郷ニテ久慈川ヲ渡リ久慈郡小里

村大字徳田ニ至福嶋縣管地磐城國東白川郡大洪村ニ接ス

一本縣ヨリ杣木縣街道

里程一里十五丁十二間三尺

但西茨城郡笠岡町大字石井ニテ本縣ヨリ崎玉縣街道ヨリ分派シ同郡北山内

村大字片庭字佛ノ山ニ至リ杣木縣下野國芳賀郡小貝村ニ接ス

一同崎玉縣街道

里程廿一里廿九丁十二間四尺五寸

但水戸市大字上市向井丁ニテ第十四號國道ヨリ分派西茨城郡笠岡町眞壁郡

下館町同郡伊贖村大字下川嶋ニテ鬼怒川ヲ渡リ結城郡結城町猿嶋郡諸川町

ヲ經同郡境町ニ至リ中利根川ヲ堺トシ千葉縣下總國東葛飾郡關宿町ニ接ス

一同千葉縣街道

里程二里三十五丁一間四尺八寸

但第十四號國道ノ内河内郡牛久村ヨリ分派北相馬郡布川町ニ至リ下利根川ヲ堺トシ千葉縣下總國印幡郡布佐町ニ接ス

一東京ヨリ水戸下市

里程一里三十四丁四間六寸二分

但第十五號國道本縣ヨリ宮城縣街道ノ内水戸市大字下市一丁目ヨリ分派東茨城郡長岡村ニ至リ第十四號國道本縣ヨリ東京街道ニ接ス

一同釜間

里程六里八町十間四尺二寸

但本縣ヨリ埼玉縣街道ノ内西茨城郡久間町ヨリ分派同郡六戸町ヲ經テ新治郡石碓町ニ至リ第十四號國道本縣ヨリ東京街道ニ接ス

一下妻ヨリ下館停車場街道

里程三里廿三丁六間二尺四寸

但眞壁郡下館ヨリ同郡下妻町迄

一同下妻

里程八里三十一丁十間四尺四寸

但眞壁郡下妻町ヨリ豊田郡宗道村同郡水海道町北相馬郡小絹村足代筒戸守谷町ヲ經同郡稻戸井村大字戸頭ニ至リ中利根川ヲ堺トシ千葉縣下總國南相馬郡布施村ニ接ス

一東京ヨリ高濱

里程一里九町五十一間

但新治郡高濱村ヨリ同郡石岡町ニ至リ第十四號國道本縣ヨリ東京街道ニ接ス

一同龍ヶ崎

里程廿一丁廿五間四尺

但河内郡龍ヶ崎町ヨリ北相馬郡北文間村大字長沖新田ニ至リ本縣ヨリ千葉縣街道ニ接ス

一 小川町ヨリ銚子港街道

但東茨城郡小川町ヨリ行方郡玉造町麻生町潮來町ヲ經テ同郡延方村ニ至リ浪逆浦ヲ涉リ鹿嶋郡豊津村大字大船津ニ至リ同郡鹿嶋町大字宮中ニテ水戸ヨリ銚子港街道ニ接ス

一 東京ヨリ佐野

里程十三丁四十一間五尺

但栃木縣下野國下都賀郡下宮村對岸渡良瀬川ヲ堺トシ西葛飾郡古河町大字悪戸新田ヨリ同郡古河町二丁目ニ至リ第六号國道東京ヨリ函館港街道ニ接ス

一 東京ヨリ濱磯

里程二里四丁廿二間四尺九寸六分

但東茨城郡磯濱町ヨリ同町地先酒沼川ヲ渡リ水戸市大字下宿三丁目ニ至リ第十五號國道宮城縣街道ニ接ス

一 念天子

里程十四里二丁十四間五尺七寸

但天子ヨリ郡珂港街道ヲ重用シ袋田村大字袋田ヨリ分岐上小川村大字頃藤下小川村大字盛金ニテ久慈川ヲ渡リ郡珂郡大宮町ヲ經全郡五臺屋村大字中河内ニテ郡珂川ヲ渡リ水戸市大字上市向井丁ニ至リ第十四號國道ハ縣ヨリ東京街道ニ接ス

一 下妻町ヨリ郡珂港街道

里程五里十丁十四間四尺

但眞壁郡眞壁町ヨリ全郡大村大字海老ヶ嶋ヲ經テ全郡下妻町ニ至リ全町ヨリ東京街道ニ接ス

一 眞岡町ヨリ銚子港街道

里程四里二十九町三十三間

但栃木縣芳賀郡眞岡丁ヨリ同郡谷田貝町堺本縣下眞壁郡中村大字樋口ヨリ

同郡下館町ニ至リ本縣ヨリ埼玉縣街道ニ接ス

一水戸下市ヨリ那珂港

里程二里十四町五十六間一尺六寸六分

但水戸市大字下市八丁目ニテ第十四号國道本縣ヨリ宮城縣街道ヨリ分派東

茨城郡下大野村大字小泉ニテ那珂川ヲ渡リ那珂郡港町ニ達ス

一大子ヨリ那珂港街道

里程十一里七町四十間四尺

但久慈郡大子町ヨリ全郡袋田村生瀬村天下野村ヲ經テ同郡譽田村大字馬場

ニ至リ本縣ヨリ福嶋縣街道ニ接ス

一馬頭ヨリ全

里程二里二十二町五十一間

但杣木縣下野國那須郡盛泉村堺本縣久慈郡依上村大字上金澤ヨリ全郡大子

町ニ至リ大子町ヨリ那珂港街道ニ接ス

一烏山ヨリ全

里程十一里十九町五十間二尺四寸

但杣木縣下野國那須郡富山村堺本縣那珂郡隆郷村大字鷺子ヨリ同郡長倉村

野口村ヲ經同村ニテ那珂川ヲ渡リ東茨城郡常磐村ニテ大子ヨリ東京街道ニ

會シ水戸市大字上市馬口勞町ニテ分派シ田見小路ニ至リ本縣ヨリ福嶋縣街

道ニ接ス

一茂木ヨリ全

里程五里二十五町五十九間五尺八寸

但杣木縣下野國芳賀郡鮎田村境本縣西茨城郡七會村大字鹽子ヨリ全郡渡里

村ニ至リ烏山ヨリ那珂港ニ接ス

一太田ヨリ那珂港

里程五里三十二町五十八間壹尺四寸

但久慈郡佐竹村大字磯邊ニテ本縣ヨリ福嶋縣街道ヨリ分派シ全郡東小澤村

大字下土木内ニテ久慈川ヲ渡リ第十五號國道ニ會シ那珂郡石神村大字石神外宿ニテ又分派シ村松村ヲ經テ全郡湊町ニ達ス

一 鋒田及磯濱ヨリ那珂湊

里程七里五町二十六間四尺八寸

但鹿嶋郡鋒田町ヨリ東茨城郡磯濱町ヲ經同町ニテ那珂川渡那珂湊ニ接ス

一 小川ヨリ同

里程三里三十町四間

但東茨城郡小川丁ヨリ同郡堅倉村大字西郷地ニ至リ第十四号國道ニ接ス

一 水海道谷田部町ヨリ同

里程五里十町二十間

但下妻ヨリ東京街道ノ内水海道町ニテ分派同郡大生村大字箕輪ニテ小貝川ヲ渡リ筑波郡谷田部町ヲ經テ信太郡東村大字中ニテ第十四号國道ニ接ス

一 栃木ヨリ同

里程十九町二十九間

但栃木縣下都賀郡中久喜村堺結城郡結城町大字小田林ヨリ結城町ニ至同町ニテ本縣ヨリ埼玉縣街道ニ接ス

一 土浦ヨリ銚子港

里程七里十町三十間五尺

但信太郡中家村大字下高津ニテ第十四號國道ヨリ分派シ水原村鳩崎村大字古渡ヲ經同村ニテ霞ヶ浦渡津ヲ渡リ河内郡大須賀村大字幸田ニ至リ千葉縣

香取郡橋向村ニ接ス

一 水戸ヨリ銚子港街道

里程十一里三十四町四十一間

但鹿嶋郡諏訪村大字樅山ニテ鋒田ヨリ那珂港街道ヨリ分派シ同郡鹿嶋町ヲ經テ同郡輕野村大字日川ニ至リ利根川ヲ堺トシ千葉縣香取郡石出村ニ接ス

一 下館ヨリ東京街道

里程十一里九町四尺

但下館町ヨリ筑波郡北條町迄

一龍ヶ崎ヨリ同

里程三里三十四町五十五間

但龍ヶ崎町ヨリ東京街道ヨリ分派シ河内郡長竿村ニ至リ千葉縣香取郡片卷村ニ接ス

一結城町ヨリ同

里程四里二十九町二十三間四尺

但本縣ヨリ埼玉縣街道ヨリ分派シ結城郡絹川村大字久保田ニテ鬼怒川ヲ渡リ眞壁郡關本町ヲ經テ同郡下妻町ニ至リ下妻町ヨリ東京街道ニ接ス

一古河堺町ヨリ同

里程十三里十八町五十八間

但第六號國道ヨリ分派シ猿嶋郡境町ニ至リ本縣ヨリ埼玉縣街道ニ會シ又分

派シ同郡岩井村ヲ經北相馬郡内守谷村ニテ鬼怒川ヲ渡リ同郡小絹村大字細代ニ至リ下妻ヨリ東京街道ニ接ス

一太田ヨリ平瀆港

里程二里六町三十一間一尺

但太田町ニテ本縣ヨリ福嶋縣街道ヨリ分派シ久慈郡坂本村大字大和田ニテ第十五號國道ニ接ス

一大子ヨリ同

里程七里一町

但久慈郡天下野村大字上高倉ニテ大子ヨリ那珂港街道ヨリ分派シ同郡中里村大字大中ニテ本縣ヨリ福嶋縣街道ニ會シ同郡中里村大字下深萩ニテ又分派シ多賀郡豊浦町大字川尻ニ至リ第十五號國道ニ接ス

一鳥山ヨリ同

里程十二里廿八町

但郡珂郡隆郷村大字鷺子ニテ鳥山ヨリ郡珂港街道ヨリ分派シ同郡山方村ニ
テ久慈川ヲ渡リ久慈郡諸富野村大字西ノ内同郡染和旧村大字中染東染ヲ經
テ同郡中里村大字下深萩ニ至リ本縣ヨリ福嶋縣街道ニ接ス
一白川ヨリ同

里程六里廿二町十間

但杣木縣東白川郡郡倉村堺本縣多賀郡關本村大字山小川大字關本中ヲ經テ
同郡平瀉町ニ達ス

一大野村ヨリ郡珂港街道

里程一里七町三十八間五分

但本村大字野木崎ヨリ北相馬郡小絹村大字筒戸ニ至縣道下妻ヨリ東京街道
ニ接ス

一大宮町ヨリ平瀉港街道

里程三里二十二町二十二間

但大宮町ニテ久慈川ヲ渡リ久慈郡世喜村郡戸村金郷村久米村譽田村ヲ經テ
全郡太田町ニ至リ同町ヨリ平瀉街道ニ接ス

一眞壁町ヨリ郡珂港街道

里程二里二十八町八間

但眞壁町ヨリ東京街道ヨリ分派シ西茨城郡西郡珂村大字岩瀬ニ至リ本縣ヨ
リ埼玉縣街道ニ接ス

一谷田部町ヨリ銚子街道

里程十二里七町四十三間

但谷田部町ニテ水海道町ヨリ郡珂港街道ヨリ分派シ筑波郡小張村北相馬郡
守谷町大字赤法垂全郡大野村大字野木崎ヲ經テ同郡取手丁ニ至リ第十四號
國道ニ會シ同丁ニテ又分派シ全郡布川丁ニ至リ利根川ヲ堺トシ千葉縣南相
馬郡布佐町ニ接ス

本文悉ク里程ヲ付シタリト雖モ明治二十一年以後各線ノ内改修並修繕ニ係ル分

ハ概テ里程ニ多少ノ伸縮アリ故ニ現今ニ對シテハ正確ナル里程ニアラス

路線延長

杣木縣茂木町ヨリ那珂港街道

西茨城郡七會村大字鹽子杣木縣管轄堺ヨリ全大字小勝東茨城郡西鄉村小松村
ヲ經テ同郡渡里村迄ヲ同村ヨリ水戸市大字上市上金町迄ハ杣木縣烏山町ヨリ
那珂港街道ヲ重用シ同市上金町ニテ分岐藤坂町表五軒町大字元白銀町現國道
ニ達スル迄ヲ延長ス

縣道へ編入

江戸崎町ヨリ東京街道

但信太郡江戸崎町里程標ヨリ同郡若賀村大字村田羽賀松山下君山河内郡根本
村大字下根本長戸村大字塗戸高作半田長峯八原村大字八代ヲ經テ太宮村大字
大徳ニ達スル路線

江戸崎町ヨリ那珂港街道

但信太郡江戸崎町ヨリ同町大字犬塚君原村大字君嶋退原舟嶋村大字掛馬竹來
阿見村大字阿見ニ達スル路線

水海道町ヨリ銚子港街道

但豊田郡大生村大字新井木現縣道ヨリ分岐同大字ニテ小貝川ヲ渡リ筑波郡
十和村大字箕輪下長沼上長沼同郡鹿嶋村大字成瀬豊村大字豊体谷井田村大
字谷井田三嶋村大字福原上嶋中嶋下嶋久賀村大字濱田上萱場下萱場徳右工
門新田河内郡駒栄村大字小通幸谷北相馬郡河原代村ヲ經テ龍ヶ崎町へ達ス
ル路線

境町ヨリ那珂港街道

但猿嶋郡境町現縣道分岐口ヨリ同郡猿嶋村大字上小橋長田村大字西泉田猿
嶋村大字山崎長田村大字栗山猿嶋村大字大步逆井山村大字逆井結城郡下結
城村大字平塚水口松木岡田郡安靜村大字村貫磯蒨田東蒨田大形村大字村岡
豊田郡西豊田村大字仁井戸岡田郡大形村大字別府鎮庭ニテ鬼怒川ヲ渡リ豊

田郡宗道村大字本宗道唐崎豊田郡鹽飼村大字大園木ニテ小貝川ヲ渡リ筑波郡吉沼村大字吉沼西高野作岡村大字作谷新治郡田水山村大字水守西田中ヲ經テ北條町へ達スル路線

古河町ヨリ那珂港街道

但西葛飾郡古河町大字古河現國道分岐口ヨリ全郡勝鹿村大字西牛ヶ谷東牛ヶ谷岡郷村大字小堤上大能猿嶋郡幸嶋村大字大和田下片田諸川結城郡名崎村大字尾崎中結城村大字菅谷豊田郡西豊田村大字若沼森貝谷川尻今里ニテ鬼怒川ヲ渡リ眞壁郡上妻村大字長塚ヲ經テ下妻町ニ達スル路線

下妻町ヨリ銚子港街道

但眞壁郡下妻町現縣道分岐口ヨリ全郡大寶村大字堀籠比毛筑波郡高道祖村菅岡村大字洞下中菅間ヲ經テ全郡山井村大字大貫現縣道ニ達スル路線
本宗道ヨリ古河停車場街道
但結城郡下結城村大字水口ヨリ全郡名崎村大字恩名猿嶋郡八俣村大字東山

田山田幸嶋村大字仁連八俣村大字北山田西葛飾郡櫻井村大字柳橋喜生久能下大野香取村大字壁羽根勝鹿村大字女沼上邊見大堤ヲ經古河町ニ達スル路線

栃木縣眞岡町ヨリ東京街道

但眞壁郡中村大字樋口現縣道ヨリ分岐栃木縣芳賀郡久下田町大字程嶋境本縣眞壁郡五所村大字五所宮西山田下江連伊讚村大字小川栃木縣下都賀郡絹村大字福良ヲ經テ本縣結城郡結城町ニ達スル路線

北條町ヨリ那珂港街道

但筑波郡北條町大字北條現縣道分岐口ヨリ全郡小田村大字山口新治郡小櫻村大字佛生寺小野越當浦澤辻青田月岡小幡村大字下青柳須釜ヲ經テ全郡柳岡町ニ達スル路線

久慈町ヨリ那珂港街道

但久慈郡久慈町里程標ヨリ同郡東小澤村大字留那珂郡村松村大字石神豊岡

チ經テ同郡石神白方現縣道ニ達スル路線
久慈町ヨリ平瀛港街道

但久慈郡久慈町里程標ヨリ多賀郡坂上村大字水木大沼國分村大字金澤河原
子町國分村大字下孫結川村油繩子高鈴村大字會瀬ヲ經テ同村大字助川現國
道ニ達スル路線

鋒田町ヨリ東京街道

但鹿嶋郡鋒田町ヨリ同町大字塔ヶ崎同郡巴村大字當間行方郡秋津村大字借
宿現原村ヨリ大字若海芹澤玉造町大字玉現原村大字谷嶋立花村大字濱ニテ
霞ヶ浦ヲ渡リ新治郡安飾村大字柏崎岩坪志土庫村大字西成井美並村大字大
和田染谷下大津村大字戸崎上大津村大字管谷手野眞鍋町大字木田余ヲ經テ
眞鍋町現國道ニ達スル路線

麻生町ヨリ那珂港街道

但行方郡麻生町現縣道分岐口ヨリ全郡大和田村大字青沼四鹿杉平津澄村大

字繁昌山田武田村大字内宿成田三和村大字高田串挽鹿嶋郡巴村大字當間ニ
テ土浦町ヨリ那珂港街道ニ達スル路線

大宮町ヨリ那珂港街道

但那珂郡大宮町ヨリ同郡瓜連村大字中里迄ハ現縣道ヲ重用シ大字中里ヨリ
分岐同郡芳野村大字鴻巣菅谷村大字福田菅谷佐野村大字佐和稻田高野ヲ經
テ同郡前渡村大字馬渡ニ達スル路線

栃木縣眞岡町ヨリ那珂港街道

但眞壁郡中村大字樋口現縣道分岐口ヨリ栃木縣下芳賀郡久下田町本縣眞壁
郡小栗村大字小栗ヲ經テ西茨城郡西那珂村大字中泉ニ達スル路線

眞壁町ヨリ東京街道

但眞壁郡眞壁町ヨリ同町大字飯塚伊佐々紫尾村大字東山田稚尾酒寄ヲ經テ
筑波郡筑波町大字上大嶋ニ達スル路線

下館町ヨリ銚子港街道